

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

非訟事件手續法中改正法律案

非訟事件手續法中左ノ通改正ス

目錄第二編中第三章ヲ第四章トシ以下順次繰下ケ第二章ノ次ニ左ノ如ク加フ

第三章 信託ニ關スル事件

第三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但其裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ト認ムル他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第四十條中「此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス」ヲ削ル

第四十條ノ二「管理人ノ選任又ハ改任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス」ヲ得ス

第四十九條中「第四十條、レノ下ニ」第四十條ノ二、レヲ加フ

第二編中第三章ヲ第四章トシ以下順次繰下ケ第二章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第四章 第三章 信託ニ關スル事件

第七十一條ノ二「信託法第八條第一項第三項、第二十二條第一項但書、第二十三條、第四十一條、

第四十六條乃至第四十八條及ヒ第五十八條ニ定メタル事件ハ受託者ノ住所地ノ區裁判所、同

法第四十九條第一項第四項ニ定メタル事件ハ前受託者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トシ受託者

又ハ前受託者數人アル場合ニ於テハ其一人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

信託法第四十九條第二項ニ定メタル事件ハ遺言者ノ最後ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十一條ノ三「裁判所ハ信託事務ノ監督ニ付必要ト認ムルトキハ財産目錄及ヒ信託事務ニ關

スル帳簿並ニ書類ヲ提出ヲ命ジ且信託事務ノ處理ニ付受信者其他ノ關係人ヲ審訊スルコトヲ

得

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十一條ノ四「裁判所ハ信託法第八條第一項又ハ同法第四十八條ノ規定ニ依リテ選任シタル

信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第七十一條ノ五「第三十九條、第四十條第二項及ヒ第四十條ノ二ノ規定ハ信託管理人又ハ信託

財産ノ管理人ノ選任又ハ改任ニ付キ之ヲ準用ス

第四十三條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第七十一條ノ六「第二百二十八條ノ規定ハ信託法第四十一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任

第八十二條中「第四十條、」ノ下ニ「第四十條ノ二、」ヲ加フ

附則ハ、

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得稅法中改正法律案

第三條ノ二、信託財產ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財產ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ナルトキト雖尙所得稅ヲ賦課ス

第十六條ノ二、第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ムニ以上ノ信託アル場合ニ於テハ尙各信託毎ニ之ヲ定ム

第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之

ヲ適用セス

第五十六條中「前項ノ支拂調書」ヲ「第一項又ハ前項ノ支拂調書又ハ計算書」ニ改メ同條第二項ノ

次ニ左ノ一項ヲ加フ

信託ノ受託者ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出ス

第五十七條中「前條第一項ノ支拂調書」ヲ「前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書」ニ改ム

第七十五條中「第五十六條第一項」ヲ「第五十六條第一項又ハ第二項」ニ、「支拂調書」ヲ「支拂調書

又ハ計算書」ニ、「第五十六條第二項」ヲ「第五十六條第三項」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

相續稅法中改正法律案

第五條中「存續期間ノ不確定ナル權利」ノ下ニ「信託ノ利益ヲ受クヘキ權利」ヲ加フ

第二十三條ノ二 信託ニ付委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做シ第三條、第二十條及前條ノ規定ヲ適用ス但シ不動産又ハ船舶ノ歸屬スヘキ權利ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録税法中改正法律案

登録税法中左ノ通改正ス

第二條第一項第四號中「第三號」ヲ「第三號ノ二」ニ改メ同項第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フニ始ム

三ノ二 信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ六十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ歸屬

權利者ナルトキハ不動産價格ノ千分ノ三十

同條第一項第十三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フニ始ム

十三ノ二 信託ノ登記

不動産價格 千分ノ五十

第三條第一項第四號中「第二號」ヲ「第三號ノ二」ニ改メ同項第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三ノ二 信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ五十

同條第一項第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七ノ二 信託ノ登記

船舶價格 千分ノ三

第三條ノ二第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登録

債權金額 千分ノ一

第三條ノ三第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登記

債權金額 千分ノ一

第三條ノ四第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登記

債權金額 千分ノ一

第十條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四ノ二 信託ノ登録

每一件 金一圓

第十一條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓
- 第十二條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ 金一圓
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 第十二條ノ二第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ 金一圓
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 第十三條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ 金一圓
- 一ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓
- 第十四條第一項第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ 金一圓
- 九ノ二 信託ノ登録 每一件 金十圓
- 第十五條第一項第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ 金十圓
- 六ノ二 信託ノ登録 每一件 金五圓
- 第十五條ノ二第一項第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ 金五圓
- 九ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓
- 第十九條ニ左ノ各號ヲ加フ 金二圓

- 六ノ二 登記又ハ登録スヘキ信託財産ニシテ委託者カ信託行為ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキモノヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録
 - 七 信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ財産權取得ノ登記又ハ登録
 - 八 信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財産權取得ノ登記又ハ登録
 - 前項第六號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者變更ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ信託財産ハ其ノ變更ノ登記又ハ登録ノ時ニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登録税ヲ課ス
- 附則
- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 印紙税法中改正法律案
- 印紙税法中左ノ通改正ス
- 第四條中「一使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙税 三錢」ノ次ニ左ノ如ク加フ
- 一信託行為ニ關スル證書 印紙税 三錢

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第九條中「信託ノ業務」ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ改メ同條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

第十 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當

金ノ支拂ノ取扱

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

臺灣銀行法中改正法律案

臺灣銀行法中左ノ通改正ス

第五條中「信託ノ業務」ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ、「有價證券ヲ買入ルルコトヲ得」ヲ

「有價證券ノ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得」ニ改メ同條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

第十 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配

當金ノ支拂ノ取扱

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第七條中「信託ノ業務」ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ改メ同條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

九 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當

金ノ支拂ノ取扱

第九條中「有價證券ヲ買入ルルコトヲ得」ヲ「有價證券ノ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得」ニ

改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

○委員 散會 午後三時三十五分

第二回 大正十一年三月十七日

出席委員

委員長 伯爵 兒玉 秀雄

副委員長

菅原 通敬

委員 男爵 長松 篤柴

同 男爵

横山 隆俊

同 男爵 藤村 義朗

同

加太 邦憲

同 男爵 橋本 圭三郎

同

倉知 鐵吉

同 小島 健三

同

田 義文

同 安田 善三郎

同

田 義文

出席政府委員

大藏省銀行局長

黑田 英雄

大藏書記官

保倉 熊三郎

司法次官

山内 確三郎

司法省民事局長

池田 寅二郎

委員 司法省參事官 三宅 正太郎

開會 午後一時十八分

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午後三時二十六分

第三回 大正十一年三月二十日

出席委員

委員長 伯爵 兒玉 秀雄 副委員長

菅原 通敬

委員 子爵 八條 隆正 同

岡田 五良平

同 男爵 長松 篤柴 同 男爵

横山 隆俊

同 男爵 藤村 義朗 同

加太 邦憲

同 橋本 圭三郎 同

倉知 鐵吉

同 室田 義文 同

早川 千吉郎

出席國務大臣

出席政府委員

內閣總理大臣兼子爵 高橋 是清

大藏省銀行局長 黒田 英雄

大藏書記官 保倉熊三郎

司法省民事局長 池田寅二郎

司法省參事官 三宅正太郎

開會 午後一時二十二分

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午後四時十二分

○第四回 大正十一年三月二十二日

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

出席委員 岡田 良平 男爵 菅原 通敬

委員 岡田 良平 男爵 長松 五篤 榎

委員 岡田 良平 男爵 菅原 通敬

委員 岡田 良平 男爵 菅原 通敬

委員 岡田 良平 男爵 菅原 通敬

同 男爵 横山 隆俊 同 男爵 藤村 義朗

同 加太 邦憲 同 橋本 圭三郎

同 倉知 鐵吉 同 小山 健三

同 室田 干義 文 同 早川 千吉郎

出席政府委員

大藏省主稅局長 松本 重威

大藏省銀行局長 黒田 英雄

大藏書記官 保倉熊三郎

司法省民事局長 池田寅二郎

司法省參事官 三宅正太郎

開會 午後一時二十六分

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 休憩ヲ命ス

休憩 午後三時一分

開會 午後三時五十四分

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午後四時十五分

第五回 大正十一年三月二十三日

出席委員

委員長 伯爵 兒玉 秀雄 大藏省副委員長

委員 岡田 良平 大藏省同員 男爵

同 加太 邦憲 大藏省同員

出席委員 小山 健三 同

同 早川 千吉 郎 同

出席政府委員 大藏省銀行局長

同 大藏書記官

保倉 熊三郎

司法省民事局長 池田 寅二郎

大開會 午後一時十四分

○委員長伯爵兒玉秀雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵兒玉秀雄 散會ヲ命ス

散會 午後一時十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

信託法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 兒玉 秀雄

貴族院議長 公爵 德川 家達 殿

信託業法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 兒玉 秀雄

貴族院議長公爵德川家達殿

伯爵 兒玉 秀雄

擔保附社債信託法中改正法律案

右特別委員長

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

伯爵 兒玉 秀雄

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 兒玉 秀雄

貴族院議長公爵德川家達殿

伯爵 兒玉 秀雄

○委員 不動産登記法中改正法律案

○右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

大藏省銀行局長 田中 嘉吉
貴族院議長公爵德川家達殿 田中 嘉吉

大正十一年三月二十三日

伯爵 兒玉 秀雄

貴族院議長公爵德川家達殿

伯爵 兒玉 秀雄

非訟事件手續法中改正法律案

伯爵 兒玉 秀雄

大正十一年三月二十三日

伯爵 兒玉 秀雄

貴族院議長公爵德川家達殿

伯爵 兒玉 秀雄

所得税法中改正法律案

伯爵 兒玉 秀雄

大正十一年三月二十三日

伯爵 兒玉 秀雄

貴族院議長公爵德川家達殿

相續稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

大正十一年三月二十三日

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

大正十一年三月二十三日

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

大正十一年三月二十三日

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

大正十一年三月二十三日

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 兒 玉 秀 雄

貴族院議長公爵徳川家達殿

日本興業銀法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 兒 玉 秀 雄

大正十一年三月二十三日

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

右可決五十貴族院議長公爵德川家達殿

右特別委員長 兒玉 秀雄

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長 兒玉 秀雄

右特別委員長 兒玉 秀雄

右可決五十貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 兒玉 秀雄 印

副委員長 菅原 通敬 印

日本興業銀行中野五右衛門

貴族院議員公爵德川家達殿

白根 正 敬 印

右特別委員長

大正十一年三月二十三日

船員職業紹介法案特別委員會

委員選舉

委員選舉

委員選舉

○大正十一年三月十四日議長ノ指名ヲ以テ船員職業紹介法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出選閣員大田

同委員選舉 委員 大田 正 子爵 榎本 武憲

同委員選舉 委員 大田 美 子爵 本多 忠 鋒

同委員選舉 委員 大田 實 子爵 竹屋 春 光

同委員選舉 委員 大田 憲 男爵 北 大 路 實 信

同委員選舉 委員 大田 憲 男爵 北 大 路 實 信

同委員選舉 委員 大田 憲 男爵 北 大 路 實 信

同委員選舉 委員 大田 憲 男爵 北 大 路 實 信

同委員選舉 委員 大田 憲 男爵 北 大 路 實 信

委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月十六日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 大田 憲 男爵

副委員長 菅原 通敬 印

ノ他ノ財産上ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 船員職業紹介事業ノ管理及連絡統一ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ船員職業紹介委員會ヲ置ク遞信大臣之ヲ監督ス

船員職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 船員職業紹介事業ハ遞信大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ船員職業紹介事業ノ監督上必要ナル場合ニ於テハ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サ

シメ、書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ業務又ハ會計ヲ檢閲スルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以

下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ船員職業紹介事業ヲ行ヒタル者

二 船員職業紹介ヲ爲シ其ノ報酬トシテ手數料其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ

受ケシメタル者

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ船員職業紹介ヲ爲ス者強請シテ職業ノ紹介ヲ爲シタルトキ亦前項ノ例ニ同シ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ無料ノ船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ本法施行後二月以内ニ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

○本法施行ノ際現ニ有料又ハ營利ヲ目的トスル船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内其ノ事業ヲ繼續スルコトヲ得

○政府委員若宮貞夫 本案提出ノ理由ハ「ゼノア」會議ノ結果並職業紹介機關ノ現狀ニ照シ船員改善ノ必要ヲ生シタルニ因ルモノニシテ大體ノ骨子トスル所ハ(一)原則トシテ營利ヲ目的トスル船員職業紹介所ノ經營ヲ禁止スルコト(二)「ゼノア」會議ニ基キ各加盟國間並各種紹介機關相互間ノ連絡統一及管理ニ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ規定スルコト(三)船員職業紹介委員會ヲ設置スルコト(四)船主及船員ニ對シ其ノ船員カ乗組ムヘキ船舶ヲ選擇スルノ自由ヲ保障スルコト等ナリ其ノ適用ノ範圍ハ命令ニ規定スル場合ヲ除キ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ムヘキ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用スルモノニシテ「ゼノア」會議ノ決定ニ比シ廣義ヲ採リタリ又現ニ營利ノ目的ヲ以テ經營セル紹介所ハ嚴重ナル監督ノ下ニ置クコトトナシ無料ヲ以テ經營スル

モノハ命令ヲ以テ定ムル許可ノ條件ニ合致スルトキハ之ヲ許可シ又政府自ラ經營スルハ經費モ莫大トナリ且實務モ十分ナルヲ期シ難キヲ以テ團體ニ對シ一定ノ經費ヲ補給シテ之ヲ經營セシムルノ途ヲ開キタリ

○委員男爵赤松範一 現在營利ヲ目的トスルモノノ數幾何アリヤ

○政府委員若宮貞夫 合計二百七十アリ

○委員男爵赤松範一 是等營業者ハ地方長官ノ許可ヲ得タルモノナルカ又其ノ手數料率ハ如何ニシテ決定スルヤ

○政府委員若宮貞夫 大體地方長官ニ於テ監督シ其ノ經營ニ當リテハ警察ノ許可ヲ要スルモノトス手數料率ノ決定モ亦警察ノ許可ヲ必要トスルモノニシテ普通三三圓又ハ給料月額ノ約一割ナリ

○委員江木翼 本案以外ニ「ゼノア」會議ノ結果タル條約案又ハ勸告ニ於テ政府カ法律案トシテ提案ノ義務ヲ負ヘルモノアリヤ

○政府委員若宮貞夫 本案ノ外海上ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齡ヲ定ムルモノ及船舶ノ滅失又ハ沈没ノ場合ニ於ケル失業ノ補償ニ關スルモノノ二條約案アルモ平和條約ノ規定ニ據リ目下權限アル機關ニ付議セラレ居レリ

○委員江木翼 本員ハ「ゼノア」會議ノ條約案ニ規定スル所ハ「フリーエンドバブリック」ノ紹介所ヲ設置スヘキ主旨ナリト解ス而シテ本案ニ據リ許可セラレタル紹介所ハ「バブリック」ノモノト云ヒ得ルヤ否ヤ

○政府委員若宮貞夫 條約案ノ主旨ハ各加盟國カ無料公益的ノ紹介所ヲ設置スルニアリ此ノ主旨ハ本案第三條ニ規定スル所ニシテ即チ「バブリック」ノ意義ヲ包含スルモノト云フヘシ而シテ其ノ以外ニ尙個人會社其ノ他ノ法人ニシテ營利的ニアラサル紹介所ノ存在ヲ認メタルモノナリ

○委員江木翼 現ニ經營セル營利的紹介所ハ如何ニシテ「フリーエンドバブリック」ノ原則ニ歸セシメントスルカ

○政府委員若宮貞夫 當業者生活ノ安全及船主船員ノ便益上是等ノモノハ當分ノ内政府ノ免許監督ノ下ニ其ノ營業ヲ繼續セシムヘシ然レトモ將來ハ政府經營ノモノ及無料公益的ノモノノ増加ニ從ヒ營利的ノモノハ漸次減少スヘキニ因リ「フリーエンドバブリック」ノ原則ニ歸セシメ得ヘシト信ス

○委員江木翼 現在營利的ナル紹介所ヲ公益的ノモノト合併スル方針ヲ採ルヘキ意ナキヤ
○政府委員若宮貞夫 何等カノ方法ヲ以テ營利的ノモノカ無料公益的ノモノニ變シ得ハ大ニ喜フ

所ナリ

○委員江木翼 營利的經營ニ從ヘル者死亡セル場合ニハ相續人ニモ尙繼續シテ許可ヲ與フルヤ又其ノ營業ノ讓渡ヲ認ムルヤ

○政府委員若宮貞夫 其ノ讓渡ハ禁シタシ相續ニ付テハ目下研究中ナリ

○委員田所美治 本案ハ「ゼノア」會議ノ條約案ノ條項又ハ今後發布セラルヘキ勅令ニ牴觸スルコトナシト解シテ可ナリヤ

○政府委員若宮貞夫 然リ

○委員田所美治 例ハ條約案ニハ「オフィサー」ヲ除キ總テノシトマンヲ含ムトアルニ對シ本案

第一條第二項ニハ「前項ニ掲クル者以外ノ船員」トアリテ「オフィサー」ニ限ルモノナリト解セラ

ルルカ如シ若シ然リトセハ果シテ條約案ト牴觸セスト云フヲ得ヘキヤ如何

○政府委員若宮貞夫 條約案第一條ヨリモ本案ノ方カ其ノ適用範圍廣キヤウニ立案シタリ即條約案ニハ「海洋航行」トアリテ湖川港灣ヲ包含セサレトモ將來湖川港灣ニモ適用ノ必要生スヘキヲ豫想シ本案ハ第一條第一項ニ於テ廣ク「沿海航路以上」ト規定シタルカ故ニ將來條約案ニ牴觸スルコトナキヲ得ヘシ

○委員田所美治

現ニ無料紹介所トシテハ日本海員接濟會ノミナリヤ

○政府委員若宮貞夫 其ノ他日本海員組合海洋統一協會神戸海員協會アリ

○委員田所美治 政府カ經營スルコトハ當分實行ノ意ナキカ

○政府委員若宮貞夫 先ツ補助金ヲ支給シテ公益ヲ目的トスル法人其ノ他ノ團體ヲシテ經營セシムル方針ナリ

○委員長内田嘉吉

散會ヲ命ス

○散會 午前十一時五十五分

第二回 大正十一年三月十七日

出席委員

委員長 内田嘉吉 副委員長 子爵 合本多忠鋒

委員 子爵 竹尾春光 男爵 北大路實信

同 男爵 二赤松 範一 同 田所美治

出席委員外議員

男爵 内田正敏

出席政府委員

内田嘉吉

田中正敏

遞信省管船局長

若宮貞夫

開會 午前十時二十分

分

分

分

分

分

分

分

○委員長内田嘉吉 開會ヲ宣告シ逐條審議ニ移ルヘキ旨ヲ命ス

○委員外議員男爵内田正敏 本案第一條ニ所謂船舶中ニハ帆船モ之ヲ含ムヤ

○政府委員若宮貞夫 帆船モ含ミ居レリ

○委員内田嘉吉 船員中ニハ船長モ含ムヤ

○政府委員若宮貞夫 船員法ト同様ニ船長モ含ミ居レリ

○委員内田嘉吉 職業紹介法ハ船舶ニ適用ナク本法案モ沿海航路ヲ航行スル船舶ニ及ハス此ノ點

ハ如何ニスヘキ考ナリヤ

○政府委員若宮貞夫 沿海航路ヲ航行スル船舶ニ對シテハ勅令ヲ以テ之ヲ規定スル考ナリ

○委員外議員男爵内田正敏 第二條中ニ所謂許可ハ現業者ニモ適用アリヤ

○政府委員若宮貞夫 御質問ノ場合ハ附則ニ其ノ規定ヲ設ケタリ

○委員男爵赤松範一 第三條中ノ補助金ハ船員ノ紹介ヲナス者ハ總テ之ヲ受クルコトヲ得ルヤ

○政府委員若宮貞夫 本案ハ「ゼノア」會議ノ主旨ヲ根據トシテ起草サレタルモノニシテ補助金ヲ

受クルコトヲ得ル者ハ公益法人及其ノ他ノ團體ニノミ限ル

○委員内田嘉吉 補助費ハ本年度ヨリ豫算ニ計上セリヤ

○政府委員若宮貞夫 本年度ヨリ計上セムトス而シテ該補助費ハ追加豫算トシテ今明日中ニ衆議

院ニ提出サルルコトト思考ス

○委員内田嘉吉 第四條中其ノ他ノ財産上ノ利益トハ其ノ意義如何

○政府委員若宮貞夫 財産的價值アル總テノ利益ヲ謂フ

○委員内田嘉吉 下宿料ノ名義ヲ以テシタル場合ハ如何

○政府委員若宮貞夫 下宿料不當ナル場合ハ報酬ヲ受ケタルモノトシテ相當ノ處分ヲ爲ス考ナリ

○委員内田嘉吉 第五條ノ命令ノ意義如何

○政府委員若宮貞夫 職業紹介法ニ所謂命令ト同一ナリ

○委員外議員男爵内田正敏 委員會ハ何處ニ設置スルヤ

○政府委員若宮貞夫 目下遞信省ニノミ設置スル考ナリ

○委員内田嘉吉 委員會ハ如何ナル人ヲ以テ之ヲ組織スルヤ

○政府委員若宮貞夫 本法ハ國內法ナルヲ以テ如何ニ之ヲ選定スルモ固ヨリ自由ナルモ併シ條約ノ結果トシテ之ヲ制定セルモノナルヲ以テ條約ニ牴觸セサル様ナササルヘカラス故ニ目下ノトコロニテハ船主船員中ヨリ之ヲ選定スル考ナリ

○委員外議員男爵内田正敏 委員會ノ職務權限如何

○政府委員若宮貞夫 質問ニ應シ答申スルコト等ヲ重ナルモノトス

○委員外議員男爵内田正敏 委員會ハ常設ナリヤ

○政府委員若宮貞夫 常設ナレトモ集會ハ必要ニ應シ之ヲ招集ス

○委員外議員男爵内田正敏 本法ノ罰則ノ程度如何

○政府委員若宮貞夫 大體ニ於テ刑法ヲ標準トシ獨逸ノ法制ヲ參酌シテ之ヲ規定シタリ

○委員内田嘉吉 附則末項事業繼續スルコトヲ云々トアリテ本則第四條トノ關係上表示方法妥當ナラス政府ノ所見如何

○政府委員若宮貞夫 附則ニハ其ノト謂フ文字ヲ附シタル故ニ有料營業ヲ繼續スルコトヲ指スノ意味ナルコト疑ナシ

○委員長内田嘉吉 討論ニ移ルヘキ旨ヲ宣告ス

○委員男爵赤松範一 本案ハ必要ニ應シ制定サレタノミナラス「ゼノア」會議ノ結果トシテ提案サレタルモノナレハ本案ハ可決スヘキモノナリト信ス

○委員内田嘉吉 附則末項ノ有料營業事業繼續ハ成ルヘク早ク廢止セラレムコトノ希望ヲ附シ本案ヲ可決セムコトヲ望ム

○委員長内田嘉吉 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長内田嘉吉 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

船員職業紹介法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月十七日

委員長 千代田 忠 義 明
委員 右特別委員長 田 嘉 吉

委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

男爵	高崎千弓彦
藤田四郎	磯部四郎
永田秀次郎	木土良次郎
委員長	伯爵 松木宗隆
副委員長	子爵 磯部四郎

會議

第一回 大正十一年三月十六日

出席委員

○大正十一年委員長	伯爵 日松 宗隆	副委員長	子爵 磯部 四郎
委員	山脇 玄	同	子爵 牧野 忠篤
同	黑田 清輝	同	子爵 板倉 勝憲

同 水邊上長次郎 同 谷銚太郎
 同 江木千之 同 男爵 阪谷芳郎
 同 男爵 若王子文健 同 男爵 高崎弓彦
 出席政府委員 法制局長官 横田千之助
 法制局參事官 馬場 鏌一
 司法次官 山内 確三郎
 司法省參事官 宮城 長五郎

○委員長伯爵松木宗隆 開會ヲ宣告ス

(參照)

陪審法案

第二章 陪審法

第一節 總則

第二章 陪審員及陪審ノ構成

第三章 陪審手續

第一節 公判準備

第二節 公判手續及公判ノ裁判

第三節 上訴

第四章 陪審費用

第五章 罰則

第六章 補則

附則

陪審法

第一章 總則

第一條 裁判所ハ本法ヲ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得

第二條 死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條 長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第四條 左ニ掲クル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ陪審ノ評議ニ付セス

一 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪

二 刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪

三 軍機保護法、陸軍刑法又ハ海軍刑法ノ罪其ノ他軍機ニ關シ犯シタル罪

四 法令ニ依リテ行フ公選ニ關シ犯シタル罪

第五條 第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定メタル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

第七條 被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

公判ニ繫屬スル事件ニ付前項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ

第九條 前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知シ且請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

管轄裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第十條 管轄移轉ノ請求アリタルトキハ被告人ハ檢事ノ被告事件陳述後ト雖其ノ決定アル迄事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

被告人事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタルニ因リ事件陪審ノ評議ニ付スヘカラサルニ至リタルトキハ檢事ノ管轄移轉ノ請求ハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

共同被告人中事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタル者アルトキハ其ノ

被告人ニ關スル管轄移轉ノ請求ニ付亦前項ニ同シ

第十一條 上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第二章 陪審員及陪審ノ構成

第十二條 陪審員ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一 帝國臣民タル男子ニシテ三十歳以上タルコト

二 引續キ二年以上同一市町村内ニ住居スルコト

三 引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト

四 讀ミ書キヲ爲シ得ルコト

前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一日ノ現在ニ依ル

第十三條 左ニ掲クル者ハ陪審員タルコトヲ得ス

一 禁治產者、準禁治產者

二 破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ

三 聾者、啞者、盲者

四 懲役、六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ヲ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者

第十四條 左ニ掲クル者ハ陪審員ノ職務ニ就カシムルコトヲ得ス

- 一 國務大臣
- 二 在職ノ判事、檢事、陸軍法務官、海軍法務官
- 三 在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所評定官
- 四 在職ノ宮内官吏
- 五 現役ノ陸軍軍人、海軍軍人
- 六 在職ノ廳府縣長官、郡長、島司
- 七 在職ノ警察官吏
- 八 在職ノ監獄官吏
- 九 在職ノ裁判所書記長、裁判所書記
- 十 在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官吏
- 十一 郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ従事スル者並船員
- 十二 市町村長
- 十三 辯護士、特許辯理士

- 十四 公證人、執達吏、代書人
 - 十五 在職ノ小學校教員
 - 十六 神官、神職、僧侶、諸宗教師
 - 十七 醫師、齒科醫師、藥劑師
 - 十八 學生、生徒
- 第十五條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除外セラルヘシ
- 一 陪審員被害者ナルトキ
 - 二 陪審員私訴當事者ナルトキ
 - 三 陪審員被告人、被害者若ハ私訴當事者ノ親族ナルトキ又ハ親族タリシトキ
 - 四 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ屬スル家ノ戶主又ハ家族ナルトキ
 - 五 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ
 - 六 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ同居人又ハ雇人ナルトキ
 - 七 陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ
 - 八 陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲タルトキ

- 九 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ
- 十 陪審員事件ニ付判事、檢事、司法警察官又ハ陪審員トシテ職務ヲ行ヒタルトキ
- 第十六條 左ニ掲クル者ハ陪審員ノ職務ヲ辭スルコトヲ得
 - 一 六十歳以上ノ者
 - 二 在職ノ官吏、公吏、教員
 - 三 貴族院議員、衆議院議員及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員但シ會期中ニ限ル
- 第十七條 市町村長ハ毎年陪審員資格者名簿ヲ調製シ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村内ニ於テ資格者有ヌル者ヲ之ヲ登載スベシ
- 陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業、住居地、生年月日及納稅額ヲ記載スベシ
- 市町村長ハ陪審員資格者名簿ヲ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スベシ
- 第十八條 市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其ノ廳ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ縦覽ニ供スベシ
- 第十九條 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレタル者ハ縦覽期間内及其ノ後七日内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

- 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレサル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
- 異議ノ申立ハ書面ヲ以テシ其ノ理由ヲ説明スベシ
- 第二十條 市町村長異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ遲滞ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ通知スベシ
- 市町村長異議ノ申立ヲ不當トスルトキハ遲滞ナク意見ヲ附シ申立書ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スベシ
- 第二十一條 前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所判事異議ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ其ノ旨ヲ市町村長及異議申立人ニ通知スベシ
- 異議ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ陪審員資格者名簿ヲ修正スベシ
- 前項ノ通知ハ異議申立書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二十日内ニ之ヲ爲スベシ
- 第二十二條 地方裁判所長ハ毎年九月一日迄ニ翌年所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域内ノ市町村ニ割當テ之ヲ市町村長ニ通知スベシ
- 第二十三條 市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シ

タル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ割當テラレタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十七條 第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者名簿ニ之ヲ準用ス

第二十四條 區裁判所判事ハ陪審員候補者ノ選定ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ監督ス

區裁判所判事ハ前項ノ事務ニ付市町村長ニ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 市町村長ハ十一月三十日迄ニ陪審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ

市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ニ其ノ旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十六條 市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審員候補者名簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中死亡シ

若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタ

ル者アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

第二十七條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メ

タル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十

六人ヲ選定スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セ

ラレタル者四分ノ三呼出ニ應シタル後ニ非サレハ其ノ年内再ヒ陪審員ニ選定セララルコトナ

ラレシ

第二十九條 陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス

第三十條 陪審ハ檢察被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一ノ陪

審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス

第三十一條 裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要スト思料スルトキハ十二人ノ陪審員ノ外ニ

人又ハ數人ノ補充陪審員ヲ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合

ニ於テ之ニ代ルモノトス

補充陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務ヲ行フハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ

順序ニ依ル

第三十二條 同日ニ數箇ノ事件ノ公判ヲ開ク場合ニ於テハ數箇ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ

陪審ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲スヘシ
 第三十三條 檢事及被告人異議ナキトキハ一ノ事件ノ爲構成セラレタル陪審ヲシテ同日ニ審理
 スヘキ他ノ事件ノ爲其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
 第三十四條 陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス

第三章 陪審手續

第一節 公判準備

第三十五條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ裁判長ハ公判準備期日ヲ定ムヘシ
 第三十六條 被告人公判準備期日前辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯
 護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ
 被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得
 第三十七條 公判準備期日ニハ被告人及辯護人ヲ召喚スヘシ
 公判準備期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
 第三十八條 召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ
 第三十九條 公判期日ヲ定メタル後被告人ノ請求ニ因リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシ

タルトキハ其ノ公判期日ヲ公判準備期日トス

第四十條 公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數ノ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ爲ス
 公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非サレハ取調ヲ爲スコトヲ得ス辯護人數人アルトキ
 其ノ一人ノ出頭ヲ以テ足ル日ハ
 公判準備期日ニ於ケル取調ハ之ヲ公行セス
 第四十一條 第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルトキハ裁判長ハ被告人ニ對シ事件
 ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ
 第四十二條 公判準備期日ニ於テハ裁判長ハ公訴事實ニ付出頭シタル被告人ヲ訊問スヘシ
 陪審判事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得
 檢事及辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得
 第四十三條 公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ必要ナル證據調ノ決定ヲ爲スヘシ
 檢事、被告人及辯護人ハ證人訊問、鑑定、檢證又ハ證據書類ノ集取ヲ請求スルコ
 トヲ得
 前項ノ請求ヲ却下スルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第四十四條 裁判所書記ハ公判準備調書ヲ作り公判準備期日ニ於ケル被告人ニ對スル訊問及其ノ供述、檢事被告人辯護人ノ申立、裁判所ノ裁判其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

第四十五條 公判準備調書ニハ前條ニ規定スル事項ノ外被告事件、被告人及出頭シタル辯護人ノ氏名並手續ヲ爲シタル裁判所年月日及裁判長陪席判事檢事裁判書記ノ官氏名ヲ記載シ被告人出頭セサルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 公判準備調書ハ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印スヘシ

裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備調書ヲ檢閲シ意見アルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十七條 檢事、被告人及辯護人ハ公判準備期日前第四十三條第二項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

公判期日七日前迄亦同シ

第四十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ檢事、被告人及辯護人ニ通知スヘシ

第四十九條 公判準備期日外ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ストキハ被告人モ亦之ニ立會フコトヲ得

裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタル被告人ハ之ニ立會フコトヲ得ス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第五十條 前條第一項ノ手續ヲ爲スベキ日時及場所ハ被告人ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 公判準備中陪審ノ評議ニ付スヘカラサル事由生シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

公判準備期日ニ於テ前項ノ事由生シタルトキハ其ノ期日ヲ公判期日トス但シ訴訟關係人中出頭セサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 被告人ハ公判準備期日ニ管轄違ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ非サレバ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ管轄違ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第五十四條 裁判所公判準備期日ニ免訴ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

免訴ノ決定確定シタルトキハ同一ノ事件ニ付更ニ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十五條 前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見ヲ聽クヘシ

第五十六條 第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公判準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ

失ハス

第五十七條 公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リテ選定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ

第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條 陪審員ニ對スル呼出狀ニハ出頭スヘキ日時、場所及呼出ニ應セサルトキハ過料ニ處スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第五十九條 陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ呼出ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務ヲ辭スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第六十條 陪審構成ノ手續ハ判事、檢察、裁判所書記、被告人、辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ手續ハ之ヲ公行セス

第六十一條 前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス
出頭シタル陪審員二十四人ニ達セサルトキハ裁判長ハ之ヲ補充スル爲裁判所所在地又ハ其ノ附近ノ市町村ノ陪審員候補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ必要ナル員數ノ陪審員ヲ選定シ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ呼出スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十二條 陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢察及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ
裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ケ除斥ノ原由アリヤ否ヲ問フヘシ
檢察、被告人及陪審員除斥ノ原由アリトスルトキハ其ノ旨ヲ申立ヲ爲スヘシ
除斥ノ原由アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十三條 出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セサル者アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十四條 檢察及被告人ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付

各其ノ半數ヲ忌避スルコトヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告人ハ尙一人ヲ忌避スルコトヲ得

被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ行フ共同ノ方法ニ付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行ハシムル方法ハ裁判長之ヲ定ム

第六十五條 裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタル後檢事及被告人ノ忌避スルコトヲ得ル員數ヲ告知スヘシ

裁判長ハ氏名票ヲ一票宛抽籤函ヨリ抽出シ之ヲ讀上クヘシ
裁判長氏名ヲ讀上ケタルトキハ檢事及被告人ハ承認又ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢事ヲ先ニシ被告人ヲ後ニス

忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得ス

次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出ス迄ニ陳述ヲ爲ササルトキハ承認ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス

裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言スル迄陳述ヲ爲ササルトキ亦同シ
陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言シタル後亦同シ

ル後亦同シ

第六十六條 前條ノ手續ニ依リ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ數ヲ充シタルトキハ裁判長ハ抽籤終リタル旨ヲ宣言スヘシ

第六十七條 陪審ヲ構成スヘキ陪審員ハ初ニ當籤シタル十二人ヲ以テ之ニ充テ補充陪審員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

第六十八條 陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ從ヒ著席スヘシ
第六十九條 裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前陪審員ニ對シ陪審員ノ心得ヲ諭告シ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ
裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第七十條 裁判長ハ陪席判事ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問及證據調ヲ爲サシムルコトヲ得
陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事及翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

第七十一條 證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ル

第七十二條 左ニ掲クル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

- 一 公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書
- 二 檢證、押收又ハ搜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖畫
- 三 公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付公務員ノ作リタル書類
- 四 前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシテ其ノ真正ナルコトノ證明アルモノ
- 五 鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫

第七十三條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事、司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル訊問調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得

- 一 共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ
 - 二 被告人又ハ證人公判外ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ於テ變更シタルトキ
 - 三 被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲ササルトキ
- 第七十四條 前二條ノ場合ノ外裁判外ニ於テ被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類又ハ裁

判外ニ於テ作成シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十五條 證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議ナキ書類圖畫ハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十六條 證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ

辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得ス
公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ援用スルコトヲ得ス
被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

第七十八條 裁判長ノ說示ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十九條 裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ララスト答ヘ得ヘキ文言

ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス

補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認

ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル理由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其

ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

第八十條 陪審員、檢事、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第八十一條 裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ陪審ニ交付スヘシ

陪審員ハ問書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條 裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ評議室ニ退カシムヘシ

裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪審ニ交付スルコトヲ得

第八十三條 陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議ヲ了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト

交通スルコトヲ得ス

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得ス

第八十四條 陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セシムル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ

對シ滯留ノ場所及他人トノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示スヘシ

第八十五條 陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラ

レタル事項ヲ遵守セサルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

第八十六條 陪審員ハ陪審長ヲ互選スヘシ

陪審長ハ議事ヲ整理ス

第八十七條 陪審ハ評議ヲ了ル前更ニ説示ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ

其ノ申立ヲ爲スヘシ

第八十八條 答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ問ニ掲クル事實ノ一

部ヲ肯定又ハ否定スルトキハ之ニ付然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ答申スヘシ

第八十九條 評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ

主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

第九十條 陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示スヘシ

陪審長ハ最後ニ其ノ意見ヲ表示スヘシ

第九十一條 犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ノ過半数ノ意見ニ依ルコトヲ要ス

第九十二條 答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出スヘシ
答申ニ不備又ハ齟齬アルトキハ裁判長ハ問書ヲ返付シ更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スヘキ旨ヲ

命スヘシ

第九十三條 裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲシテ問及之ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀セシム

第九十四條 前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退廷セシムヘシ

第九十五條 裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定
ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得

第九十六條 陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲
ササルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ
被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第九十七條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ
判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ原由タル事
實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘ
シ

第九十八條 引續キ七日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ
陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪
審員ナキトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審構成ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス公訴棄却、管轄違又ハ免訴ノ裁判ヲ
爲スヘキ原由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ審判ヲ爲スヘシ

第一百條 裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審ノ構成其ノ他陪審ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ説示

ノ要領ヲ公判調書ニ記載スヘシ
第三節 上訴

第一百一條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第一百二條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第一百三條 上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス
一 法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セサリシトキ

二 第十二條第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タル中トヲ得サル者評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラルヘキ陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ申立ヲ爲ササリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 忌避セラレタル陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 裁判長ノ說示法律ニ違反シタルトキ

六 裁判長證據トシテ說示シタルモノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ

七 裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ說示ヲ爲シタルトキ

第一百五條 上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ラ裁判ヲ爲ス場合ヲ除クノ外事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ
破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審ノ評議ノ結果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ答申以後ノ手續ノミヲ爲スヘシ

第四章 陪審費用
第一百六條 左ニ掲クルモノヲ以テ陪審費用トシ訴訟費用ノ一部トス

一 陪審員ノ呼出ニ要スル費用
二 陪審員ニ給與スヘキ旅費、日當及止宿料

第七七條 陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲ストキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス

第五章 罰則

第八八條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 故ナク呼出ニ應セサルトキ

二 宣誓ヲ拒ミタルトキ

三 第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 合故ナク退廷シタルトキ

五 第八十四條ノ指示ニ違反シタルトキ

第九九條 陪審員評議ノ顛末又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

罰金ニ處ス

前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行ハ其

ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百十條 裁判長ノ許可ヲ受ケスシテ陪審ノ評議室ニ入り又ハ陪審ノ評議ヲ了ル前裁判所内ニ

於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一十條 陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シ請託ヲ爲シ又ハ評議ヲ了ル前私

ニ意見ヲ述ヘタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百十二條 過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘ

シ

前項ノ決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章 補則

第一百十三條 市制第六條ノ市又ハ北海道ノ區ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關

スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ

關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第一百十四條 第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

○委員長伯爵松木宗隆 散會ヲ命ス

散會 午後零時十分

第二回 大正十一年三月十七日

出席委員

委員長 伯爵 松木宗隆 副委員長 磯部四郎

委員 子爵 黑田清輝 子爵 板倉勝憲

同 水上長次郎 同 富谷銈太郎

同 江木千出之 男爵 阪谷芳郎

同 男爵 若王子文健 男爵 高崎入弓彦

同 永田秀次郎

出席政府委員

第四回 大正十一年三月二十四日

法制局長官 横田千之助

法制局參事官 馬場 鏌一

司法次官 山内 確三郎

司法省刑事局長 林 賴三郎

司法省參事官 秋山 高三郎

開會 午後一時二十二分

○委員長伯爵松木宗隆 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵松木宗隆 散會ヲ命ス

散會 午後三時三十一分

第三回 大正十一年三月二十日

出席委員

委員長 伯爵 松木宗隆 副委員長 磯部四郎

委員 山脇 玄 同 子爵 牧野 忠篤

同 子爵 黑田清輝 同 子爵 板倉勝憲
 同 岡野敬次郎 同 委員 水上長次郎
 同 富谷銚太郎 同 男爵 若王子文健
 同 高十崎弓彦

出席政府委員

○委員長伯爵松木宗隆 散會ヲ命ス

法制局長官

横田千之助

○委員長伯爵松木宗隆 開會ヲ宣告ス

法制官參事官

馬場鏌一

○委員長伯爵松木宗隆 散會ヲ命ス

司法次官

山内確三郎

○委員長伯爵松木宗隆 散會ヲ命ス

司法省刑事局長

林有賴三郎

開會 午後一時三十五分

○委員長伯爵松木宗隆 開會ヲ宣告ス

散會

午後三時三分

第四回 大正十一年三月二十四日

散會 午後三時三分

散會

散會

出席委員

委員長 伯爵 松木宗隆 副委員長 磯部千四郎

委員 子爵 山脇大玄 同 子爵 牧野忠篤

同 子爵 黑田清輝 同 子爵 板倉勝憲

同 水上長次郎 同 富谷銚太郎

同 江木千之 同 男爵 阪谷芳郎

同 男爵 若王子文健 同 藤田四郎

出席委員外議員

○委員長伯爵松木宗隆 散會ヲ命ス

出席政府委員 義準

法制局長官

横田千之助

法制局參事官

馬場鏌一

司法次官

山内確三郎

司法省刑事局長

林有賴三郎

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十五日、委員員、婚書式、成

右特別委員長

伯爵 松木 宗隆

○委員員 貴族院議長公爵徳川家達殿

第五回開會 千九百二十年三月

委員長 伯爵 松木 宗隆 印
副委員長 磯部 四郎 印

委員員 伯爵 松木 宗隆

委員員 伯爵 松木 宗隆

委員員 伯爵 松木 宗隆

委員員 伯爵 松木 宗隆

委員員 伯爵 松木 宗隆

委員員 伯爵 松木 宗隆

委員員 伯爵 松木 宗隆

大正九年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正九年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正九年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正九年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

大正九年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右五件特別委員會

○大正委員選舉 十月十日委員員及臨時委員員

○大正十一年三月十四日議長ノ指名ヲ以テ大正九年度豫備金支出ノ件、大正九年度豫備金外ニ於テ

豫算超過及豫算外支出ノ件、大正九年度特別會計豫備金支出ノ件、大正九年度特別會計豫備金外

ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正九年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル

件)特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

男爵 木越 安綱
子爵 西尾 忠友
伯爵 福原 録二郎

右可決スルモノアリト議決スルニ依リテ豫備金
 大正十一年三月十七日
 男爵 東 鳳郷 二 安
 市 來 乙 彦
 石 橋 謹 二

○大正十一年三月十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ
 委員長 阪本 鈞之助
 副委員長 男爵 東 郷 安

○大正十一年三月十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ
 委員長 阪本 鈞之助
 副委員長 男爵 東 郷 安

委員 男爵 木 越 安 綱 同 西 尾 國 忠 方
 同 市 來 乙 彦 同 石 橋 謹 二
 同 伊 丹 彌 太 郎

出席政府委員
 朝鮮總督府財務局長 河 内 山 樂 三
 外務書記官 松 永 直 吉
 内務書記官 堀 切 善 次 郎
 大藏省主計局長 西 野 元
 大藏書記官 佐 々 木 謙 一 郎
 海軍主計大佐 加 藤 亮 一
 司法書記官 近 藤 三 郎
 農商務書記官 副 島 文 千 八

○委員長 阪本 鈞之助 開會ヲ宣告ス
 ○委員長 開會 午前十時二十五分 豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)外四件特別委員會

○委員(附記) 議案浩澁ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長阪本鈺之助 大正九年度豫備金支出ノ件ニ付質問スヘキ旨ヲ宣告ス

○委員男爵木越安綱 豫備費ハ豫算ヲ編成セスシテ第一豫備費第二豫備費トシテ支出スルコトアリヤ

○政府委員西野元 全ク豫定セサル必要ノ費用ハ第二豫備金ヨリ之ヲ支出シ避クヘカラサル豫算ノ不足ハ第一豫備金ヨリ之ヲ支出スルコトニ爲リ居レリ

○委員男爵東郷安 戰爭中及戰爭後ハ屢國際會議アリテ多大ノ費用ヲ要スルモノアリ此等ノ費用ハ豫定セルモノト豫定セサルモノトアルカ此等ノ費用ハ豫メ之ヲ定ムルコトハ出來サルモノナリヤ

○政府委員西野元 此等ノ費用ハ豫メ之ヲ定ムルコトハ甚タ困難ナルモノニシテ若之ヲ豫算トスルトスルモ正確ナルコトハ出來サルナリ

○委員男爵東郷安 國際裁判所ノ費用ハ之ヲ豫定スルコトヲ得サルヤ

○政府委員西野元 國際裁判所ノ費用ハ今後ニ於テ之ヲ編成スルコトヲ得ヘシ是マテハ未定ナル事項ナリシカ故ニ豫算ニ編成シテ協賛ヲ求ムルコトハ不可能ナリシナリ今後ハ國際裁判所ニ限

○ラス國際聯盟ニ關スル費用モ豫算ニ組入ルル考ナリ

○委員男爵東郷安 貨幣ノ交換差金トハ如何ナルモノナリヤ

○政府委員西野元 此ノ差金ハ外國ノ金銀相場ノ變動ニ因リテ生シタル損害金ノ如キモノヲ云フ

○委員男爵東郷安 其ノ支拂ノ差金ヲ定ムル時期ハ如何ナル時ヲ以テスルヤ

○政府委員佐々木謙一郎 支拂ノ時期ハ定マリ居ルモノト然ラサルモノトアリ此ノ差額ハ毎月清算シツツアリ

○委員男爵東郷安 農商務省ノ産業獎勵費即チ化學工業ノ保護ノ爲メ法律ヲ以テ之ヲ補助ス云々トアリ其ノ後ノ經過ハ甚不良ナリト聞ク今後ニ於テモ尙繼續シテ之ヲ保護スル考ナリヤ

○政府委員副島千八 法律ノ豫定シタル期間内ハ獎勵金ノ交付ハ已ムヲ得サルナリ

○委員男爵東郷安 今日豫算ノ不足ノ折柄前途ノ見込ナキモノニ付テハ其ノ獎勵金ノ交付ハ之ヲ中止スルヲ相當ナリト思フ當局ノ御意見如何

○政府委員副島千八 法律ノ效力カ存續スル間ハ法律ノ解釋上其ノ期間ハ政府ニ於テ一定ノ化學會社ニ對シ補助スル考ナリ

○委員男爵東郷安 大正三四年頃ノ工業ト今日ノ工業トハ大ナル變化ヲ來シタリ此ノ法律ハ特種

○ノ工業會社ニ特種ノ補助ヲナスヲ目的トスルヲ以テ今日ニ於テハ其ノ補助方法ヲ今少シ改正スルヲ相當トス然ラサレハ年豫備費ヲ支出セサルヘカラサルニ至ルヘシ本員ハ今後ノ國費ニ付テハ餘程考慮ヲ要スヘキモノト信ス

○政府委員副島千八 大體ニ於テハ御説ノ通りナルモ化學工業中特ニ染料ノ如キハ我國ニ於テハ充分ナル製品ヲ得サルモノト思ヒ居リシニ今日其ノ染料ヲ製出スルコトヲ得タルヲ以テ從前ヨリ今一層監督ヲ嚴ニシテ餘リ損害ヲ生セサル會社ニ對シ補助ヲ爲シ其ノ目的ヲ貫徹セシムル考ナリ

○委員男爵東郷安 政府カ補助シタル以來會社カ染料ノ善良ナルモノヲ製造シ居ルコトハ本員モ亦之ヲ認ム然ルニ染料會社中ニハ到底前途ノ見込ミナキモノコレアルヲ以テ今後當局ニ於テ充分考慮セラレタシ尙此等ノ負擔ニ付テハ大藏省當局ハ如何ナル考ヲ有スルヤ

○政府委員西野元 其ノ經過ニ於テ良成績ヲ得サルハ甚遺憾トスル所ナリ政府ニ於テモ此ノ法律ノ目的ヲ達シ國庫ノ負擔ヲ輕減セムコトヲ希望スルモノナリ

○委員阪本鈺之助 國勢院費ハ如何ナル理由ニ基キ第二豫備費ヨリ之ヲ支出シタルヤ

○政府委員佐々木謙一郎 大正九年度ハ議會カ解散セラレタル爲メ豫算不成立ノ結果其ノ不足ヲ

生シタルナリ

○委員阪本鈺之助 議會カ解散セラレタル爲ニ第二豫備費ヨリ此ノ費用ヲ支出スルヲ相當トスル

理由何レニアリヤ

○政府委員佐々木謙一郎 議會カ解散セラレタルカ爲ニ當然第二豫備費ヨリ支出スルモノト云フニハアラスシテ議會解散ノ結果事急ト認メタルカ爲之ヲ支出シタルナリ

○政府委員西野元 豫算ナクシテ官制ヲ定ムルハ大體ニ於テ相當ニハアラスルモ國勢院ノ組織ハ緊急ノ事情ニ依リテ生シタル費用ナルカ故ニ第二豫備費ヨリ之ヲ支出シタル次第ナリ

○委員阪本鈺之助 鐵道省ナトハ國勢院ト異ル所ナキニアラスヤ

○政府委員西野元 金額ニ付テハ多少ノ差異アルモ大體ニ於テ豫算ノアル場合ハ便宜上官制ヲ定ムルモ差支ヘナキモノト思料ス

○委員長阪本鈺之助 休憩ヲ命ス

休憩 午前十一時三十分

開會 午前十一時四十分

○委員長阪本鈺之助 開會ヲ宣告ス

○委員男爵東郷安 外務省ノ電信料ノ豫算ハ總括シタルモノナリヤ外報ノ遲速ニ付テ國民ハ多大ノ遺憾ヲ有ス當局ハ外國電信料ハ一等國ノ體面ヲ保持スル上ニ於テ今少シ考慮スルノ必要ナキヤ此點ニ於ケル政府ノ意見如何

○政府委員松永直吉 政府ノ考ハ本員ヨリ申スコトハ不可能ナルモ本員一個ノ考ヘトシテハ外國ニ劣ラサル機械ヲ使用シ對等ナル關係ヲ維持シタキ考ナリ

○委員男爵東郷安 米國ノ百年祭ナルモノハ果シテ國際的關係ヲ有スルモノナリヤ其ノ百年祭ニ春日艦ヲ派遣シタルニ其ノ百年祭ハ國際的ノモノニアラサリシト云フハ事實ナリヤ果シテ事實ナリトスルナラハ何故ニスル國際的關係ナキ百年祭ニ春日艦ヲ派遣セリヤ

○政府委員加藤亮一 米國ヨリ要求アリタル爲メ派遣セリ實ハ派遣セル當時ニ於テハ當局モ國際的關係アリト考ヘ居タリ

○委員男爵東郷安 今後ニ於テ斯ル無意義ナルコトナカラシト希望ス

○政府委員加藤亮一 春日艦ノ派遣ハ其ノ效果ヲ今茲ニ詳細ニ説明スルヲ得サルモ國交上無形的

○ニ利益ヲ得タリト信ス

○委員男爵東郷安 本員ハ全然利益ナシト云フニ非サルモ米國ノ百年祭ハ地方的ノモノニシテ國

際的關係ノ下ニ軍艦ヲ派遣スルノ要ナキモノト信スルカ故ニ今後ハ斯ル場合ニ於テハ軍艦ヲ派遣セサル様ニ注意セラルヘシ

○委員長阪本鈺之助 大正九年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件ヲ問題ニ供ス

○委員阪本鈺之助 臨時事件費ヲ支出シテマテモ思想ノ調査ノ爲メ官吏ヲ派遣セシムルノ必要ナ

キモノト信スルモ政府當局ノ認ムル派遣ノ理由如何

○政府委員堀切善次郎 戦後以來非常ニ思想ノ變化シタルヲ以テ其ノ思想ノ變化ノ程度如何ヲ大

體ニ於テ知り得ルハ當局ノ必要ト考ヘタル爲メ之カ調査ノ爲メニ臨時費用ヲ支出セリ

○委員男爵東郷安 今議會ニ司法省當局ニ於テ過激思想取締法案ヲ提出セラレタリ其ノ法案ハ內

務省ノ最近ノ調査ノ結果ナリヤ

○政府委員堀切善次郎 其ノ法律案ハ內務當局ヲ調査ノ結果カ其ノ内容トナリタルモノト謂フヲ

得サルモ其ノ立案ニハ大ナル關係ヲ有セリ

○委員阪本鈺之助 何レノ階級ノ官吏ヲ派遣シタルヤ

○政府委員堀切善次郎 大正九年度ニハ二三人ヲ派遣シタルカ其ノ人ハ知事、內務部長、警察部

長級ノ者ナリ

○委員阪本鈺之助 臨時費用ヲ支出シテマテ知事、内務部長、警察部長等ヲ外國ニ派遣スルノ必

要アリヤ

○政府委員堀切善次郎 人民ノ思想ノ變化ヲ知ルハ一般人民ノ取締上必要ナルカ爲メナリ

○委員男爵東郷安 知事、内務部長、警察部長ヲ一年又ハ半ケ年モ外國ニ派遣シタル結果事務ニ

差支ヲ生セサリシヤ事務代理ヲ置キテ此等ノ事務ヲ處理シ得タリトナラハ何故ニ行政整理ヲ爲

シテ此等ノ官吏ヲ廢止セサルヤ

○政府委員堀切善次郎 知事、内務部長、警察部長等ハ現職ノ儘ニテハ外國ニ派遣セス然レトモ

最モ短期間ノ場合ハ旅行中臨時ニ其ノ事務ヲ代理セシムルコトアリ

○委員男爵東郷安 知事、内務部長、警察部長等ノ所管事務カ代理又ハ分擔セシムルコトカ出來

得ルモノトスルナラハ今少シ考究セラレテ行政整理ヲ行ハルルヲ相當ト信ス

○委員阪本鈺之助 臨時豫備費ノ支出ハ大正九年度ノミナリヤ其ノ後ハ如何

○政府委員西野元 大正九年度ノ豫算ハ議會解散ノ爲メ不成立トナリタル爲メ前年度ノ豫算ニ依

リ實行豫算ヲ編成シテ之ヲ支出シタルトモ其ノ後即チ十年度ニハ一般ノ豫算ニ計上シ臨時事件

豫備費トシテハ之ヲ編成セス

○委員長阪本鈺之助 本案ニ付質問ナケレハ次ノ事項ニ移ル旨ヲ宣告シ大正九年度豫備金外ニ於テ

豫算超過及豫算外支出ノ件ヲ問題ニ供ス

○委員阪本鈺之助 國際聯盟事務局費分擔金ハ初ハ臨時事件費ヨリ之ヲ支出スルハ可ナリト謂フ

○委員其ノ後ハ如何

○政府委員松永直吉 大正十年度マテハ臨時費トシテ之ヲ要求シタルモ此ノ費用ハ毎年必要ヲ生

スルヲ以テ大正十一年度ヨリハ約四十萬圓程度ノ金額ヲ經常費トシテ之ヲ豫算ニ計上セリ

○委員長阪本鈺之助 散會ヲ命ス

散會 午後零時三十分

第二回 大正十一年三月二十日

出席委員

委員長 阪本鈺之助 副委員長男爵 東郷安

委員 男爵 木越安綱 同 市來乙彦

同 石橋謹二 同 伊丹彌太郎

出席政府委員

朝鮮總督府財務局長

河内山樂三

臺灣總督府財務局長

阿部 太滂

關東廳事務官

西山左内

大藏書記官

佐々木謙一郎

陸軍一等主計正

飯塚唯助

海軍主計大佐

加藤亮一

文部省參事官

武部 欽一

農商務書記官

副島千八

開會 午前十時十五分

○委員長阪本鈺之助 開會ヲ宣告ス

○委員男爵木越安綱 豫算不成立ノ場合ニハ前年度ノ豫算ニ依ルコトナリ居レリ若前年度ヨリ

豫算額少ナキ場合ニハ如何ニスルヤ

○政府委員佐々木謙一郎 御質問ノ場合ハ實行豫算ニ依ル

○委員阪本鈺之助 本案ノ百六十五頁教育補足費トアルハ如何

○政府委員阿部滂 大正九年度ニ於テ豫算不成立トナリ七月臨時議會ニ提出シテ協賛ヲ經ルマテ

ニ要シタル費用ナリ

○委員阪本鈺之助 同頁警察賞與ニ豫備金ヲ支出アリ此ノ賞與ハ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ給與ス

ヘキモノナラスヤ

○政府委員西山左内 警察ニハ一定ノ規則アリ其ハ所定ノ行爲ヲ爲シタル者ニハ相當ノ賞與ヲ給

與スルコトトナリ居レリ必スシテ豫算ニ制限セララルル性質ノモノニ非ズ

○委員阪本鈺之助 東京砲兵工廠ニ於テハ巨額ノ復舊修理費ヲ要シ大阪工廠ニハ此ノ種ノモノナ

シ如何ナル理由ニ依ルヤ

○政府委員佐々木謙一郎 大阪工廠ニ於テハ復舊工事尠ナカリシ故ナリ

○委員男爵木越安綱 兵器ノ復舊修理費ニ不足ヲ生シタル原因如何

○政府委員飯塚唯助 是ハ露國其ノ他聯合國ニ援助シタル爲メ生シタルナリ

○委員阪本鈺之助 大阪工廠ニハ何故不足ヲ生セザリシヤ

○政府委員飯塚唯助 大阪工廠ニ於テハ復舊修理スルヘキモノ尠ナカリシ爲ナリ

○委員阪本鈺之助 海軍省所管豫備金支出ノ理由如何

- 政府委員加藤亮一 賠償金ノ支拂ヲ要スルコト多カリシ爲メナリ
- 委員阪本鈺之助 文部省所管ノ豫備金支出ノ理由如何
- 政府委員武部欽一 退官及死亡賜金ノ支出ニ不足ヲ生シタルト職務上病毒ニ感染シ又ハ負傷シタル者ニ死傷手當ノ支給ヲ要スルモノ多カリシト竝ニ傳染病ノ流行、物價騰貴ニ伴ヒ血清類及痘苗調製配送費ノ多カリシトニ依ル支出ノ爲メナリ
- 委員阪本鈺之助 本案百五十一頁郵便葉書注文高ノミ増加云々トアリ郵便切手ノ増加ハ生セザリシヤ
- 政府委員佐々木謙一郎 郵便切手ニハ不足ヲ生セザリシナリ要シタル郵便切手ノ増加ハ生セザリ
- 委員男爵木越安綱 朝鮮總督府所管臨時警察費ニ不足ヲ生シタル理由如何
- 政府委員河内山樂三 警察制度改正ノ爲メニ費用ヲ要シタリ
- 委員市來乙彦 豫備金支出ノ最近ノ狀況如何
- 政府委員佐々木謙一郎 大正七年度以來物價騰貴ノ爲メ豫備金支出モ漸次増加シツツアリシカ將來ニ於テハ豫備金支出ヲ要スルコトナカルヘシト思惟ス又目下ノトコロニテハ豫備金増加ノ計劃モ之ヲ有セス

○委員長阪本鈺之助 本案ヲ討議ニ付スヘキ旨ヲ宣告ス

○委員男爵木越安綱 豫備金ハ其ノ支出ノ跡ニ徴シ之ヲ考察スルニ全般ニ通シテ其ノ支出寬緩ニ失スルノ感ナキ能ハス將來ハ今少シク之ヲ嚴肅ニサレムコトヲ希望ス此ノ趣旨ヲ以テ決議ヲ爲シ承諾ヲ與ヘテハ如何

賛成

○委員市來乙彦 此ノ希望決議ハ如何ナル形式ヲ採リテ之ヲ報告スヘキヤ

○委員阪本鈺之助 委員長カ本會議ニ於テ之ヲ報告スルノ際特別委員會ノ決議ナリトテ此ノ趣旨ヲ述フルヲ以テ足ルモノト信ス

○委員長阪本鈺之助 散會ヲ命ス

散會 午後零時五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正九年度豫備金支出ノ件

大正九年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

大正九年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正九年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件 支出ノ件

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十日

右特別委員長

○委員長 阪本 鈺之助

○委員 貴族院議長公爵德川家達殿

○委員 阪本 鈺之助 委員長 阪本 鈺之助 助印

○委員 市來 心造 委員 市來 心造 副委員長 男爵 東 郷 安印

○委員 山田 三郎

○委員 山田 三郎 委員 山田 三郎

○委員 山田 三郎 委員 山田 三郎

○委員 山田 三郎 委員 山田 三郎

○委員 山田 三郎 委員 山田 三郎

簡易生命保險法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十一年三月十六日議長ノ指名ヲ以テ簡易生命保險法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

○委員 伯爵 勸修寺 經雄

○委員 子爵 西大路 吉光

○委員 男爵 高千穂 宣麿

○委員 男爵 岩倉 道俱

○委員 男爵 調所 恒徳

○委員 高田 早苗

○委員 大谷 嘉兵衛

○委員 藤本 潤 附作

○委員 三木 與吉郎

○大正 委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	勸修寺經雄
副委員長	子爵	西大路吉光

第一回 大正十一年三月二十二日

出席委員

委員長	伯爵	勸修寺經雄	副委員長	子爵	西大路吉光
委員	男爵	高千穂宣麿	委員	男爵	岩倉道俱
同	男爵	調所恒徳	同	男爵	高田早苗
同		大谷嘉兵衛	同	伯爵	藤本幸閑
同		三木與吉郎			

○大正十一年三月二十二日出席政府委員

逓信次官	秦	豐助
簡易保險局長	桑山	鐵男

開會 午前十一時二分

○委員長伯爵勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

(參照)

簡易生命保險法中改正法律案

簡易生命保險法中左ノ通改正ス

第四條中「二百五十圓」ヲ「二百五十圓」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵勸修寺經雄 休憩ヲ命ス

○委員 休憩 午前十一時十二分

○委員 開會 午前十一時三十二分

○委員長伯爵勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵勸修寺經雄 休憩ヲ命ス

○委員休憩 午前十一時四十二分

○委員開會 午後三時五十九分 宣告ス

○委員長伯爵勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵勸修寺經雄 散會ヲ命ス

○委員散會 午後四時十七分 命ス

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シマシ

簡易生命保險法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十二日

前委員長伯爵勸修寺經雄

前委員長伯爵勸修寺經雄

(參照) 貴族院議長伯爵德川家達殿

○委員伯爵勸修寺經雄 開會ヲ宣告ス

開會 午前十一時二分

右特別委員長

伯爵 勸修寺經雄

委員長 伯爵 勸修寺經雄 印

副委員長 子爵 西大路吉光 印

臺灣私設鐵道補助法案特別委員會

○委員委員選舉 玉直 開會ヲ宣告ス

○大正十一年三月十六日議長ノ指名ヲ以テ臺灣私設鐵道補助法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

第一回 委員 子爵 青木信光

第二回 委員 子爵 新庄直知

第三回 委員 子爵 大島健一

第四回 委員 子爵 平井晴二郎

第五回 委員 子爵 安場末喜

第六回 委員 子爵 黑川幹太郎

第七回 委員 子爵 中村純九郎

第八回 委員 子爵 西久保弘道

第九回 委員 子爵 平尾喜三郎

出席委員

○大正十一年三月二十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月二十二日開會

會議

第一回 大正十一年三月二十二日

出席委員

委員長 子爵 新庄直知 副委員長 男爵 安場末喜

委員 男爵 黑川幹太郎 同 男爵 西久保弘道

出席政府委員 平尾喜三郎

出席政府委員

臺灣總督 男爵 田健吉治郎

臺灣總督府財務局長 平尾喜三郎

阿部 滂

○大正十一年三月二十二日開會

○委員長子爵新庄直知 開會ヲ宣告ス

(參照) 臺灣私設鐵道補助法案特別委員會

臺灣私設鐵道補助法案

第一條 臺灣ニ於テ公衆ノ用ニ供スル爲經營スル私設鐵道ノ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費

ニ對シ年八分ノ割合ニ達セルトキハ臺灣總督ハ營業開始ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ不足額ヲ補

給スルコトヲ得但シ補助金ハ鐵道ノ建設費ニ對シ年八分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 補助ヲ爲スヘキ私設鐵道ハ二呎六吋以上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條 臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ一經營者ノ經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ各區ニ付第

一條ノ規定ニ準シ補助ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條及前條ノ規定ニ依ル建設費及益金ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ算出シタル額ニ

依ル

第五條 補助金ノ年總額ハ最高八十萬圓トス

第六條 補助金ノ毎年度ノ豫算殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條 補助ヲ受クル鐵道ノ管理者カ法令、法令ニ基キテ爲ス命令、許可若ハ補助ニ附シタル

條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ臺灣總督ハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

貴族院議長公爵德川家達殿
子爵 新庄 直知

委員長 子爵 新庄 直知印
副委員長 男爵 安場 末喜印

○委員長 子爵 新庄 直知
○副委員長 男爵 安場 末喜

開會 時間 午前十時二十分

○委員 男爵 吉田 幸藏

○委員 男爵 小早川 四郎

○委員 男爵 福原 俊丸

○委員 男爵 藤田 平太郎

○委員 男爵 安樂 兼道

○委員 男爵 西川 甚五郎

○委員 男爵 服部 平一

○委員 男爵 秋月 種英

○委員 男爵 藤井 包總

○委員 男爵 吉田 幸藏

○委員 男爵 小早川 四郎

○委員 男爵 福原 俊丸

○委員 男爵 藤田 平太郎

○委員 男爵 安樂 兼道

○委員 男爵 西川 甚五郎

○委員 男爵 服部 平一

○委員 男爵 秋月 種英

○委員 男爵 藤井 包總

○委員 男爵 吉田 幸藏

○委員 男爵 小早川 四郎

○委員 男爵 福原 俊丸

○委員 男爵 藤田 平太郎

○委員 男爵 安樂 兼道

○委員 男爵 西川 甚五郎

○委員 男爵 服部 平一

○委員 男爵 秋月 種英

○委員 男爵 藤井 包總

○委員 男爵 吉田 幸藏

○委員 男爵 小早川 四郎

○委員 男爵 福原 俊丸

○委員 男爵 藤田 平太郎

○委員 男爵 安樂 兼道

○委員 男爵 西川 甚五郎

○委員 男爵 服部 平一

○委員 男爵 秋月 種英

○委員 男爵 藤井 包總

○委員 男爵 吉田 幸藏

○委員 男爵 小早川 四郎

○委員 男爵 福原 俊丸

○委員 男爵 藤田 平太郎

○委員 男爵 安樂 兼道

○委員 男爵 西川 甚五郎

銅、真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案特別委員會

千二百七十九

銅、真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

大藏省 田部 龍

○大正十一年三月十六日議長ノ指名ヲ以テ銅、真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

同 委員 男爵 吉田 幸藏

同 委員 男爵 小早川 四郎

同 委員 男爵 福原 俊丸

同 委員 男爵 藤田 平太郎

同 委員 男爵 安樂 兼道

同 委員 男爵 西川 甚五郎

同 委員 男爵 服部 平一

同 委員 男爵 秋月 種英

同 委員 男爵 藤井 包總

同 委員 男爵 吉田 幸藏

同 委員 男爵 小早川 四郎

同 委員 男爵 福原 俊丸

同 委員 男爵 藤田 平太郎

同 委員 男爵 安樂 兼道

同 委員 男爵 西川 甚五郎

同 委員 男爵 服部 平一

同 委員 男爵 秋月 種英

同 委員 男爵 藤井 包總

○大正十一年三月十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 吉井 幸藏

副委員長 服部 三

會議

第一回 大正十一年三月十七日

出席委員

委員長 伯爵 吉井 幸藏 副委員長 伯爵 服部 三

委員 子爵 秋月 種英 同 男爵 藤井 包總

同 男爵 福原 俊丸 同 男爵 藤田 平太郎

同 安樂 兼道 同 伯爵 西川 甚五郎

出席政府委員

○大正十一年三月十六日委員ノ計略ヲ以テ 大藏書記官 入野 義一 中務省書記官 鐵 貞平

委員選舉

大藏書記官 岡田 信

農商務省 田中 隆三

農商務省 嶺山 局長

崎川 才四郎

開會 午前十一時十五分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

(參照) 銅、真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案

關稅定率法別表輸入稅表中第四百六十四號及第四百七十一號ニ掲クル物品ノ輸入税ハ當分ノ内

同表ニ依ラス別表ニ依ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

品名	單位	稅率
銅		
一 塊及錠	每百斤	七・〇〇
二 條及竿	同	一五・〇〇

三 板	同	一六・二〇〇
四 線	同	一〇・〇〇〇
甲 金屬ヲ鍍セサルモノ	同	一九・三〇〇
イ 徑〇・五ミリメートルヲ超エサルモノ	同	一五・七〇〇
ロ 其ノ他	同	二〇・四〇〇
乙 卑金屬ヲ鍍シタルモノ	同	三 割
五 撚合線	從 價	三 割
六 筒及管	從 價	三 割
甲 卑金屬ヲ鍍セサルモノ	每百斤	二一・二〇〇
乙 卑金屬ヲ鍍シタルモノ	從 價	三 割
七 屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	每百斤	七・〇〇〇
真鍮及青銅	同	七・〇〇〇
塊及錠	同	七・〇〇〇
二 條及竿	同	七・〇〇〇

甲 スチウムタービン用ノモノ	同	二一・〇〇〇
乙 其ノ他	同	二二・六〇〇
三 板	同	二二・八〇〇
四 線	同	一五・〇〇〇
五 筒及管	同	一七・五〇〇
甲 金屬ヲ鍍セサルモノ	同	一九・五〇〇
乙 卑金屬ヲ鍍シタルモノ	同	三三・三〇〇
六 箔	同	七・〇〇〇
七 屑及故(改造用ノミニ適スルモノ)	同	七・〇〇〇

備考 從量税率ノ單位ハ圓トス

○政府委員田中隆三、我國ニ於ケル銅鑛山ニシテ今日尙其ノ探堀ヲ持續シ年ヲ經ルコト三百年以上ニ達スルモノアリ實ニ我國ハ銅ノ產出國トシテハ米國ノ次位ニアリ其ノ盛ナル時ニ當リテハ銅ノ輸出額一億圓以上ニ達セリ我國ノ產銅價格ハ倫敦相場ヨリ三圓内外低シ故ニ我國ハ外國ヨ

リモ安價ナル銅ヲ使用シ居ル狀況ニアリ今日ハ戰時用トシテ製作シタルモノニシテ尙多クノ剩餘アリ之カ即市場ヲ威嚇シツツアリ現今ハ小資本ノ鑛山ハ概テ倒産シ僅ニ經營ヲ繼續スルモノハ富豪所有ノ鑛山ノミ年額五萬圓以上ヲ產出スルモノ所謂主要ナル鑛山百八十一箇所アリシカ今ハ減シテ其ノ六割ハ採掘ヲ廢スルニ至レリ其ノ餘命ヲ保持スル鑛山ト雖出來得ル限リ設備ヲ縮少シ人員ヲ減シ出來得ル限リ其ノ事業ヲ切り詰メ居リテ斯界ハ誠ニ憂フ可キ状態ニアリ原則トシテハ經營上多クノ鑛石ヲ採掘シ製作セサルヘカラサルニ此ノ状態ニ放置スル時ニハ僅ニ維持經營スル殘存ノ鑛山モ遂ニハ廢滅スルニ至ルヘシ他ノ工業ニ於テハ事業ヲ中止スルト云フコトアルモ鑛山ノ採掘ヲ中止スルハ此等ノ工業ト大ニ其ノ趣ヲ異ニシ再ヒ鑛山ノ採掘ヲ開始セムカ爲メニハ非常ナル費用ヲ要ス銅ハ米國ヨリハ價格三十八圓位ニテ我國ニ輸入シ來ルニ我國ノ製産物ハ四十五圓ノ相場ナルヲ以テ十七圓ノ差アリ故ニ輸入銅ニ對抗セムニハ十七圓ノ課税ヲ附加セザレハ外國ヨリノ輸入ヲ防クコトヲ得サルナリ是レ今日ノ關稅ヲ增加スルト云フコトトナリタル所以ナリ表中ノ屑、故、ト云フ無税ノモノマテモ税ヲ附スルニ至リシハ輸入防止ノ爲メナリ銅ノ加工業者ノ失業モ又大ナラサルカト云フモノアレトモ其ノ數一萬人ニ及ハス鑛山ノ勞働者十數萬人ニ比スレハ數ノ上ニ於テモ比較ニナラス以上ノ理由ニテ一圓二十錢ノ税率

ヲ増加シテ七圓ト爲シタルナリ外國ニ於テハ見越輸入ヲ防ク爲メニ本案ノ如キモノハ議會ニ提出スルト同時ニ直ニ實行シ通過セサル場合ニハ其ノ増率ノ分丈ケヲ返却スルモノトスル國モア

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後零時五分

第二回 大正十一年三月十八日

出席委員

- | | | | |
|-----|-------------|------|------------|
| 委員長 | 伯爵 吉井 幸藏 | 副委員長 | 服部 一三 |
| 委員 | 子爵 秋 月 種 英 | 同 | 男爵 藤 井 包 總 |
| 同 | 男爵 小早川 四郎 | 同 | 男爵 福 原 俊 丸 |
| 同 | 男爵 藤 田 平 太郎 | 同 | 安 樂 兼 道 |
| 同 | 西 川 甚 五 郎 | | |

出席政府委員

- | | |
|------|-------|
| 大藏技師 | 矢部規矩治 |
|------|-------|

農商務次官

田中 隆三

農商務省鑛山局長

崎川才四郎

開會 午後三時三十九分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長吉井幸藏 休憩ヲ命ス

休憩 午後四時三十分

開會 午後四時四十二分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

○委員 散會 午後五時五十五分

第三回 大正十一年三月二十日

出席委員

委員長 伯爵 吉井幸藏 副委員長 服部 一三

委員 子爵 秋月種英 同 男爵 藤井包總

同 男爵 小早川四郎 同 男爵 福原俊丸

同 男爵 藤田平太郎 同 安樂兼道

同 西川甚五郎

出席委員外議員

男爵 東郷 安

出席政府委員

大藏書記官 中島 鐵平

大藏技師 矢部規矩治

農商務次官 田中 隆三

農商務省鑛山局長 崎川才四郎

大正十一年三月二十日

開會 午後一時十八分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

○委員 散會 午後四時二十六分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

銅真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十日

右特別委員長

伯爵 吉井 幸藏

出淵 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 吉井 幸藏 印

副委員長 服部 一三 印

○委員 出淵委員及編員

同 西川 甚正 浪

同 田 平太 浪

同 小早川 四浪

同 小早川 英

健康保險法案特別委員會

委員選舉

○大正十一年三月十六日議長ノ指名ヲ以テ健康保險法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

同 片桐 英貞 央

同 北里 柴三郎

同 武井 守正

同 上山 滿之進

同 平野 長祥

同 岩佐 新

同 江木 翼

同 金杉 英五郎

同 横山 章

○大正十一年三月十八日男爵岩佐新委員ヲ辭任ス同日議長ハ其ノ補闕トシテ男爵福原俊丸ヲ本委員ニ選定ス

委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 子爵 片桐 貞 央
副委員長 江 津 木 正 翼

大 會 議

第一回 大正十一年三月二十日

出席委員

委員長 子爵 片桐 貞 央 副委員長 江 山 木 隆 翼
委員 北 里 柴 三 郎 委 同 長 男 爵 武 井 守 正 印
同 上 山 滿 之 進 同 長 男 爵 平 野 榮 長 祥 印
同 男 爵 福 原 俊 九 同 午 爵 金 杉 英 五 郎

○大正十一年三月二十日出席委員外議員

委員選舉 藤 本 閑 作
出席政府委員

農商務省工務局長 男爵 四 條 隆 英
農商務書記官 膳 桂 之 助

開會 午後一時二十三分

○委員長子爵片桐貞央 開會ヲ宣告ス

(參照)

健康保險法案

健康保險法

第一章 總 則

第一條 健康保險ニ於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出產手當金ノ支給ヲ爲スモノトス
第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ
第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算

定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險者ハ被保險者ヲ使用スル事業主ニ對シ其ノ使用スル者ノ異動、報酬其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事項ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシムルコトヲ得

第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得

第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ保險者ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ノ規定ニ於テ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス
第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ
他ノ公課ニ先ツモノトス

第十二條 政府ノ事業ニ使用セラルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二章 被保險者

第十三條 工場法ノ適用ヲ受クル工場又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場若ハ工場ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及

一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 前條ニ規定スル工場及事業場ヲ際クテ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

- 一 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業
 - 二 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業
 - 三 電氣又ハ動力ノ發生、變壓又ハ傳導ノ事業
 - 四 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ
 - 五 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業
 - 六 前號ニ掲クルモノヲ除ク外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ通送ノ事業ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ
 - 七 貨物積卸ノ事業
 - 八 前各號ニ掲クルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業
- 前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其

ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス

第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場カ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ

工場ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日

又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當セサルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得

ス

第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレ

サルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌

日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルト

キハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保

險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得 業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ資格
前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日前一年内ニ於
テ百八十日以上被保險者タリシモノ又ハ喪失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシモノハ勅
令ノ定ムル期間内ニ申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十

日ヲ經過シタルトキ、保險料ヲ納付セスシテ命令ヲ以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ又

ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第三章 保險者

第二十二條 健康保險ノ保險者ハ政府及健康保險組合トス

第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲必要ナル施設ヲ爲ス

コトヲ得

第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス

第二十七條 健康保險組合ハ事業主、其ノ事業ニ使用セラルル被保險者及第二十條ノ規定ニ依

ル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組

合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ

於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ

一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ

得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同

時ニ健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル

事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ

付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付

之ヲ準用ス

第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ハ總テ

之ヲ組合員トス

前項ノ被保險者ハ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキト雖第二十條ノ規定ニ依ル被保

險者タルトキハ仍之ヲ組合員トス

第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セ

ズ

第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財産ノ狀況

ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ他其ノ

執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執

行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔トス

第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約

ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ

狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合

ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解

散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依

第四章 保險給付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ保險者ハ被保險ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第四十七條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ

付百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ一年內百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

被保險者ハ前二項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ノ支給ヲ受クル期間療養ノ給付ヲ受ク

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養

ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルト

キ

二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル

方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收

ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フ

モノニ對シ埋葬料トシテ被保險ノ報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額
カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬
ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支
給ス

第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅
令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ
非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テハ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル
費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分擔ス

第五十四條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷疾病手當金ハ之ヲ支給セス

第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ
被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ
受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキハ前條ノ規定ニ依リ保險給
付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他
ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險
者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支
給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九
條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分
娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者
ヨリ受クルコトヲ得

第五十八條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

第五十九條 前條ニ掲クル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

第六十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サス

第六十一條 被保險者鬪爭若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十二條 保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二 本法施行區域外ニ在ルトキ

三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四 監獄留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

前項ニ掲クル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル揮指ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十六條 保險給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 保險者ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルト

キハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損

害賠償請求ノ權利ヲ取得スル限ニ於テ其ノ權利ハ第三者ニ對シテ移轉スルコトヲ得ス

第六十八條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ

負擔ス

前項ノ規定ニ依ル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ

於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減

額スルモノトス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二

十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十三條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラルル被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受クル被保

險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十四條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得

ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定スル制限ヲ超エテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事

業主ノ負擔トス

第七十五條 健康保險組合ハ第七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發スル勅令ノ

規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ増加スルコトヲ得

第七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收セス

一 傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給ヲ受クルトキ

二 第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

第七十七條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第

二十條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保險料ヲ被保險者ニ

支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第七十九條 保險料ノ納付期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決

定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所

ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ其ノ

處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル保險官署ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル

者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條 前條ノ規定ニ依リ訴願ノ提起アリタルトキハ保險官署ハ第二次健康保險審査會ノ

審査ヲ經、主務大臣ハ第三次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スヘシ

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル

者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他

ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

證據調ニ關シテハ民事訴訟法ノ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ健康保險審査會ノ爲ス證據

調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第八十六條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ

裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テ

ハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第六十七條及第七十四條

乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰則

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ

又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サス、虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ其ノ手續ノ遅延シタル期間其ノ負擔スヘキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合カ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（附記） 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長子爵片桐貞央 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十五分

第二回 大正十一年三月二十二日

出席委員

委員長 子爵 片桐 貞央

副委員長

江 木

翼

委員 北里 柴三郎

同

武 井 英 守 正

正

同 男爵 平野 齋長 祥

同

福 原 俊 丸

丸

同 男爵 金杉 英五郎

同

横 山 章

章

出席國務大臣

出席委員

第三出席政府委員 三月二十三日

農商務省工務局長 男爵 四條 隆 英

農商務書記官 膳 桂 之 助

○委員開會 午後一時二十七分

○委員長子爵片桐貞央 開會ヲ宣告ス

○委員長子爵片桐貞央 散會ヲ命ス

散會 午後三時三十二分

第三回 大正十一年三月二十三日

出席委員

委員長 子爵 片桐 貞央

副委員長

江 木

翼

委員 北里 柴 三 郎

同 男爵

武 井

守 正

同 上山 滿 之 進

同 男爵

平 野

長 祥

同 男爵 福 原 榮 俊 丸

同

金 杉

英 五 郎

同 横 山 章

同

麻 生

太 吉

出席委員外議員

第二回 大正十一年三月二十二日 東 二 郷

安

麻 生

太 吉

○委員出席國務大臣 閣 作

農商務大臣 男爵 山 本 達 雄

農商務省工務局長

男爵

四 條

隆 英

農商務書記官

膳 桂

之 助

開會 午後一時四十七分

○委員長子爵片桐貞央 開會ヲ宣告ス

○委員長子爵片桐貞央 散會ヲ命ス

散會 午後四時二十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

健康保險法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

貴州湖廣長公積金川案整理

子爵

片 桐

貞 央

○委員長 貴族院議長公爵德川家達殿

○委員 大正十一年三月二十三日分

- 委員長 子爵 片桐 貞央 印
- 副委員長 江 木 翼 印

○委員 大正十一年三月二十三日分

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

○委員 子爵 片桐 貞央

貴族院議長 公爵 德川家達

子爵 片桐 貞央

江 木 翼

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

子爵 片桐 貞央

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案特別委員會
大正九年法律第五十二號中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉 子爵 土方 雄 志

○大正十一年三月二十日議長ノ指名ヲ以テ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船

舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案、大正九年法律第五十二號中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト

左ノ如シ

子爵 土方 雄 志

子爵 松 平 直 平

男爵 目賀田 種太郎

男爵 安 場 末 喜

男爵 周 布 兼 道

鍋 島 桂 次 郎

鎌 田 勝 太 郎

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案外一件特別委員會 千三百十五

橋本辰二郎

田中封清 文

委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 男爵 目賀田種太郎

副委員長 千鶴 橋本辰直一郎

千鶴 土式 兼 志

會議

第一回 大正十一年三月二十三日

出席委員 八ニ關スル者 大五武平 若井榮五十二 中野五若 若井榮 若井榮 若井榮

○大五十委員長 男爵 目賀田種太郎 副委員長 南橋本辰直二郎

委員長 子爵 土方雄志 同 子爵 松平直平

(補選) 大五武平 同 男爵 周布兼道

大五武平 同 若井榮五十二 中野五若 若井榮 若井榮 若井榮

内地 同 若井榮五十二 中野五若 若井榮 若井榮 若井榮

○新出席政府委員 大 委員若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二

○委員若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二

○委員若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二

○委員若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二

○委員若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二

○委員若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二 若井榮五十二

○委員長男爵目賀田種太郎 開會ヲ宣告ス

(參照) 附 則

○内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太、南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案内

地、朝鮮、臺灣又ハ樺太、南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關シテハ關稅法、關稅

定率法、噸稅法及輸出貨物ニ關シ内國稅ヲ免除シ又ハ内國稅ニ相當スル金額ヲ下戻シ若ハ交付

スルコトヲ定メタル規定ヲ適用セス

○本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルハ内國稅ニ相當スル金額ヲ下戻シ若ハ交付

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太、南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案外ニ件特別委員會 千三百十七

本法施行前南洋群島ヨリ輸出シタル貨物ノ輸入ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前南洋群島ニ輸出シタル貨物ニ對スル税金ノ免除又ハ税金ニ相當スル金額ノ下戻若ハ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正九年法律第五十二號中改正法律案

大正九年法律第五十二號中左ノ通改正ス

第一條及第四條中「朝鮮又ハ臺灣」ヲ「朝鮮、臺灣又ハ南洋群島」ニ改ム、出入ニ關スル法律案内

(參照) 附 則

○委 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○政府委員元田敏夫 本案提出ノ理由ハ一ハ内地、朝鮮、臺灣又ハ南洋諸島トノ間ニ於ケル關稅ノ障壁ヲ撤廢スルモノニシテ一ハ其ノ撤廢ニ伴ヒ出港稅ニ關スル制度ヲ設クル爲ニ改正ヲ要スルモノナリ

○委員長男爵目賀田種太郎 二案ヲ連ネテ質問ニ移ルヘキ旨ヲ宣告ス

○委員男爵目賀田種太郎 勅令ヲ以テ法案ノ施行期日ヲ定ムル意思ナリヤ

○政府委員元田敏夫 委任統治ニ據ルモノナルヲ以テ關東州ニ於ケルト同様ニ解釋シテ此ノ法律

ノ執行ニ任スヘシ

○委員橋本辰二郎 南洋ヨリ輸入スル品額及之ニ對スル稅額ハ何程ナリヤ
○政府委員中島鐵平 大正九年度ニ於ケル輸入品額ハ二百二十三萬八千圓之ニ對スル稅額ハ三千六百十四圓大正十年度ニ於ケル輸入品額ハ二百十五萬二千圓之ニ對スル稅額ハ三千九百八十圓餘ナリ品物ハ主トシテ砂糖コブラ燐礦等ナリ

○委員橋本辰二郎 大正十一年度ニ至リ遽ニ稅額ノ増加シタル理由如何

○政府委員中島鐵平 燐礦等ニ對シテハ無稅ナルモ砂糖ニ對シテハ課稅セラルルモノニシテ砂糖ノ如キハ歲ヲ追ヒテ其ノ産額増加スル爲稅額モ亦増加スル次第ナリ

○委員橋本辰二郎 船舶出入ノ噸數如何

○政府委員元田敏夫 唯今詳細ナル統計ヲ持セサルヲ以テ追テ答辯スヘシ

○委員男爵目賀田種太郎 南洋群島中ノ小ナル島ニ人ノ居住シ居ル島アリヤ又島ト島ト如何ナル方法ヲ以テ之カ連絡ヲ執リ居ルヤ

○政府委員元田敏夫 極メテ小ナル島ニハ居住民ナキモノモアリ又島ト島トノ連絡ハ主トシテ帆船ヲ以テ連絡ヲ取り居レリ

○設員橋本辰二郎 内地ト南洋トノ交通機關ハ如何

○政府委員元田敏夫 内地ト南洋トノ交通機關トシテハ三千噸級ノ汽船ヲ以テ定期航海ヲナシツツアリ其ノ回数ハ年ニ十二三回ナリ

○委員男爵安場末喜 南洋ニ於ケル主タル産物ハ如何

○政府委員中島鐵平 主トシテ燐鑛砂糖コブラ等ナリ以テ紙ヲ答辯スベシ

○委員男爵安場末喜 南洋ハ面積ニ於テハ臺灣ニ比較シ得ヘカラサルモノナラム然レトモ産物ニ

アリテハ臺灣ニ匹敵ス砂糖ノ如キハ年々増加シ現在ニ於テハ餘程ノ産額アルコトト思考セラレ

○其ノ額如何

○政府委員元田敏夫 大砂糖ハ年々土地ノ開拓ニ伴ヒ増加スルモ其ノ數量ハ唯今詳細ナルコトハ明

言シ得ス

○委員鎌田勝太郎 聞クト云ロニ依レハ南洋ニ於ケル事業ハ餘リ振ハサル様子ナリ之ヲ對シテ何

○等カノ方法ヲ講シテ開發セシムル者ナキヤ

○政府委員元田敏夫 南洋ニ於テ内地人ノ經營シ居ル事業ハ財界ノ不況ノ結果現在ニ於テハ悲境

ニ陥リ居レタリ之ニ對シテ政府當局ニ於テハ出來得ル限り補助ヲナシテ開發

○委員男爵周布兼道 南洋ニ於ケル島ノ數如何

○政府委員元田敏夫 南洋ニ於ケル甘蔗ノ採培ニハ土人ヲ使役シ居ル者甚シクハ臺灣ノ如ク

○委員男爵安場末喜 然リ土人モ使役シ居レリ

○政府委員元田敏夫 賃銀ノ差ハ只今詳ナラズ

○委員男爵周布兼道 南洋ニ於ケル島ノ數如何

○政府委員元田敏夫 十五萬圓位ニテハ不足ナルモ豫算ノ都合上已ムヲ得ス唯獎勵ノ端緒トシテ

○委員鎌田勝太郎 十五萬圓位ニテ産業ノ獎勵出來得ルモ

○政府委員元田敏夫 然リ土人モ使役シ居レリ

○委員男爵安場末喜 南洋ニ於ケル甘蔗ノ採培ニハ土人ヲ使役シ居ル者甚シクハ臺灣ノ如ク

○政府委員元田敏夫 賃銀ノ差ハ只今詳ナラズ

○委員男爵周布兼道 南洋ニ於ケル島ノ數如何

○政府委員元田敏夫 十五萬圓位ニテ産業ノ獎勵出來得ルモ

○委員鎌田勝太郎 十五萬圓位ニテ産業ノ獎勵出來得ルモ

○政府委員元田敏夫 然リ土人モ使役シ居レリ

○委員男爵安場末喜 南洋ニ於ケル甘蔗ノ採培ニハ土人ヲ使役シ居ル者甚シクハ臺灣ノ如ク

○政府委員元田敏夫 賃銀ノ差ハ只今詳ナラズ

○委員男爵周布兼道 南洋ニ於ケル島ノ數如何

○政府委員元田敏夫 十五萬圓位ニテ産業ノ獎勵出來得ルモ

○委員鎌田勝太郎 十五萬圓位ニテ産業ノ獎勵出來得ルモ

○政府委員元田敏夫 然リ土人モ使役シ居レリ

○委員男爵安場末喜 南洋ニ於ケル甘蔗ノ採培ニハ土人ヲ使役シ居ル者甚シクハ臺灣ノ如ク

○政府委員元田敏夫 精確ナル數字ハ只今詳ナラス

○委員男爵周布兼道 先刻南洋トノ交通機關トシテ年ニ十二三回船舶ノ往復スルコトヲ承知セリ

○其ノ隻數如何又其ノ船舶ノ寄港スル島及定期以外ノ交通機關ノ有無如何

○政府委員元田敏夫 定期船トシテ使用シ居ル船ハ郵船會社ノ所有船ニシテ其ノ隻數ハ三隻アリ

○寄港ハ横濱ヲ出帆シ小笠原島及琉球ヲ經テ往クモノニシテ其ノ他ノ寄港地ハ參考書ノ地圖ニテ

詳ナルヲ以テ一覽セラレタシ定期船外ノ交通機關ハ殆ント之レナシ

○委員鎌田勝太郎 定期船ニ付キ質問致シタシ南洋ノ住民ハ交通機關ノ不完備ナル爲メ非常ナル

不便ヲ感シツツアリ當局ニ於テハ汽船會社ニ補助ヲナシ交通ノ頻繁ヲ計ル考ナキヤ

○政府委員元田敏夫 御尤モナル質問ナルモ未タソレマテ必要ヲ認ムルニ至ラス現在ノ儘ニテモ

大ナル不便ナシト思フ

○委員長男爵目賀田種太郎 質問終了シタルヲ認メ討論ニ移ル可キ旨ヲ宣告ス

○委員鎌田勝太郎 原案ニ對シテハ別ニ異議ナキモ希望トシテ南洋ノ開發ニ對シ政府當局ニ於テ

ハ今少シク努力セラレ獎勵金等モ今一步進メテ其ノ額ヲ増シ充分ニ開發セラレムコトヲ望ム

○委員長男爵目賀田種太郎 本案ニ對シ他ニ異議ナキヤ

異議ナシ

○委員長男爵目賀田種太郎 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長男爵目賀田種太郎 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後三時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

委員長 右特別委員長 田賀田種太郎

男爵 田賀田種太郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

大正九年法律第五十二號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

貴族院議長公爵德川家達殿

委員 長 男爵 目賀田 種太郎

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

委員 長 男爵 目賀田 種太郎 印

副委員長 橋本 辰二郎 印

明治三十五年法律第四十九號中改正法律案特別委員會 附記

統計資料實地調査ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正十一年三月三十日議長ノ指名ヲ以テ明治三十五年法律第四十九號中改正法律案、統計資料實地調査ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルニト左ノ如シ委員員名

伯爵 柳 澤 保 惠

子爵 本 多 忠 鋒

男爵 西 村 精 一

男爵 斯 波 忠 三 郎

男爵 坪 井 九 八 郎

原 保 太 郎

和 田 豐 治

高 倉 萬 虎

委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	柳澤八保惠
副委員長	男爵	斯波忠三郎

會議

第一回 大正十一年三月二十三日

出席委員

出席委員	伯爵	柳澤八保惠	副委員長	男爵	斯波忠三郎
	伯爵	子爵	多田忠	男爵	中西五村
	男爵	坪井九八郎	同	和	田豐治
	出席政府委員	國勢院總裁	小川平吉		
		國勢院部長	牛塚虎太郎		

開會 午後一時三十分

○委員長伯爵柳澤保惠 開會ヲ宣告ス

(參照)

明治三十五年法律第四十九號中改正法律案

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依ル調査後五年ニ該ル年ニ於テ簡易ナル國勢調査ヲ施行ス

統計資料實地調査ニ關スル法律案

第一條 政府ハ勞働ニ關スル統計資料蒐集ノ爲必要アルトキハ特ニ期日ヲ定メ全國ニ涉リ又ハ

一定ノ區域ヲ劃シテ實地調査ヲ行フ

前項ノ實地調査ノ期日、範圍、方法其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 實地調査ニ依リテ蒐集シタル個個ノ資料ハ統計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第三條 實地調査ニ關スル事務ニ從事シタル者其ノ職務執行ニ關シ知得タル個人、法人、組合

又其ノ業務ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第四條 實地調査ニ際シ調査ヲ忌避シ、申告ヲ拒ミ又ハ故意ニ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第五條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計若ハ威力ヲ用キテ實地調査ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○委員伯爵柳澤保惠 政府委員ヨリ明治三十五年法律第四十九號中改正法律案ニ關スル説明アラムコトヲ求ム

○政府委員小川平吉 至極簡單ナル法案ナレハ別ニ更ニテ説明スル程ノコトモナカルヘシ若シ質疑アラハ其ノ點ニ付御答ヘ致スヘシ

○委員男爵西村精一 此ノ法律ハ朝鮮ニモ之ヲ施行スル豫定ナリヤ

○政府委員小川平吉 然リ前年ノ大調査ノ時モ其ノ豫定ナリシモ時恰モ朝鮮ハ騷擾後人民十分ニ落付カサリシ情況ニ在リシヲ以テ誤解ヲ招カンコトヲ恐レ中止シタルナリ

○委員男爵西村精一 若朝鮮ニ於テモ之ヲ行フトスレハ提出中ノ豫算額ニテハ餘リニ僅小ニ過キスヤ開會 千三百二十八

○政府委員小川平吉 朝鮮ニ於ケル分ハ特別會計ヨリ之ヲ支辨セシムル考ナリ

○委員長伯爵柳澤保惠 質問終了シタリト認メ討論ニ入ル可キ旨ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 他ニ意見ナキニ依リ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵柳澤保惠 次ニ統計資料實地調査ニ關スル法律案ヲ問題ニ供スル旨ヲ宣告ス

○委員伯爵柳澤保惠 政府委員ヨリ提案ノ説明アラムコトヲ求ム

○政府委員小川平吉 本案モ極メテ簡單ナルモノナレハ御質疑ノ點ニ付御答致スヘシ

○委員和田豐治 參考書中申告セシム可キ事項ニ職工ノ生計費ノ項目ナキハ不備ノ感アリ如何

○政府委員小川平吉 家計調査ニ關シテハ二回續ケテ豫算ヲ提出シタルモ不幸通過セス甚遺憾トスルトコロナルモ何レ調査スル豫定ナリ

○委員男爵斯波忠三郎 本案於ニ於ケル労働者ノ範圍如何

○政府委員小川平吉 筋肉労働者ノ意味ナリ

○委員和田豐治 今ノ説明ニテハ範圍狭ク感ス大體監督者ニアラサル從業者位トシテハ如何

○政府委員牛塚虎太郎 當局ニテハ右ノ如ク廣義ニ考ヘ居ラス小川總裁ノ説明通リナリ

○委員長伯爵柳澤保惠 質問終了シタリト認メ討論ニ入ル可キ旨ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 別ニ意見ナシト認メ本案ヲ表決ニ付ス

○可決

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

○明治三十五年法律第四十九號中改正法律案ニ關シ、本委員會ハ、前日ナチハ不備ノ點アリ、故ニ

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

○大正十一年三月二十三日

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ノ旨ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ノ旨ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ノ旨ヲ宣告ス

○委員長伯爵柳澤保惠 散會ノ旨ヲ宣告ス

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 柳澤保惠

貴族院議長伯爵徳川家達殿

委員長 伯爵 柳澤保惠 印

副委員長 男爵 斯波忠三郎 印

○大正十一年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	男爵	山川健次郎
副委員長		服部 早三

會議

第一回 大正十一年三月二十三日

出席委員

委員長	男爵	山川健次郎	副委員長	子爵	服部 早三
委員	侯爵	佐佐木行忠	同	男爵	板倉 勝憲
同	男爵	今園 國貞	同	男爵	藤村 義朗
同		高田 早苗	同		同

出席政府委員

○大正十一年三月二十日開會、計議マ以テ首ニ内務省警保局長兼警視廳長湯地幸平ノ成

開會 午後一時二十五分

○委員長男爵山川健次郎 開會ヲ宣告ス

(参照)

治安警察法中改正法律案

治安警察法中左ノ通改正ス

第五條第二項中「女子及」ヲ削ル

○委員子爵板倉勝憲 外國ニ於テハ女子ニハ結社ヲ許ス國アリヤ

○政府委員湯地幸平 外國ニハ之ヲ許スモノアリ又之ヲ許ササル國アリ然レトモ大體ニ於テ之ヲ

許ス國多シ

○委員長男爵山川健次郎 別ニ質問ナケレハ討議ニ入ルヘキ旨ヲ宣告ス

○委員服部 早三 本員ハ本案ニ賛成ス

○委員長男爵山川健次郎 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長男爵山川健次郎 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後一時四十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

治安警察法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

○委員大正十一年三月二十三日

右特別委員長

○委員長 貴族院議長公爵徳川家達殿

男爵 山川健次郎

○委員長 貴族院議長公爵徳川家達殿

副委員長 服部 一三印

○委員長 貴族院議長公爵徳川家達殿

○委員長 貴族院議長公爵徳川家達殿

○委員長 貴族院議長公爵徳川家達殿

○委員長 貴族院議長公爵徳川家達殿

○委員長 貴族院議長公爵徳川家達殿

狩獵法中改正法律案特別委員會

○委員選舉

○大正十一年三月二十二日議長ノ指名ヲ以テ狩獵法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員選舉 貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 徳川 圀順

○大正十一年三月二十三日委員會議

委員長 伯爵 川村鐵太郎

副委員長 子爵 伊集院兼知

會議

第一回 大正十一年三月二十三日

出席委員

委員長 伯爵 川村鐵太郎 副委員長 子爵 伊集院兼知

委員 男爵 宇佐川一正 同 玉利喜造

同 男爵 永山盛興 同 仁尾川惟茂

同 山田敏 同 高橋隆一

出席國務大臣

農商務大臣 男爵 山本達雄

○大正出席政府委員十二日委員會議

委員選舉

農商務次官 田中隆三

農商務書記官

石黒忠篤

開會 午後一時二十五分

○委員長伯爵川村鐵太郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

狩獵法中改正法律案

狩獵法中左ノ通改正ス

第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等 所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 五十圓

二等 所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族 三十圓

大三等 一等及四等以外ノ者 十五圓

前項四等ニ該當スル者ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項四等ニ該當スル者ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條中「狩獵ヲ爲ス」ヲ「鳥獸ヲ捕獲スル」ニ改ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵川村鐵太郎 散會ヲ命ス

散會 午後三時三十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

狩獵法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵川村鐵太郎

貴族院議長公爵德川家達殿

伯爵中野五右衛門

伯爵中野五右衛門

(參照) 政府委員

○委員長伯爵川村鐵太郎 開會ニ宣書ス

開會 午前一時二十五分

委員長 伯爵 川村鐵太郎 印
副委員長 子爵 伊集院兼知 印

取引所稅法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正十一年三月二十二日議長ノ指名ヲ以テ取引所稅法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ

如シ

中村圓一郎	伯爵 奧平昌恭
谷森真男	子爵 榎本武憲
田邊大瀧	和田彦次郎
同	和山滿之進
同	上松範一
同	赤松義朗
同	藤村義男
同	谷森真男
同	若槻禮次郎
同	中村圓一郎

○大正十一年三月二十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	奧平昌恭
副委員長	男爵	藤村義朗

會議

第一回 大正十一年三月二十三日

出席委員

委員長	伯爵	奧平昌恭	副委員長	男爵	藤村義朗
委員		和田彦次郎	同		上山滿之進
同		谷森真男	同		若槻禮次郎
同		中村圓一郎	同		同

出席政府委員

○大正十一年三月二十二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

大藏省主稅局長	松本重威
大藏書記官	草間秀雄

委員選舉

取引所税法中改正法律案特別委員會

農商務省商務局長 其ノ補佐 鶴見左吉、雄
農商務書記官 川久保修吉

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

(参照)

取引所税法中改正法律案

取引所税法中左ノ通改正ス

第五條 取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ差金ノ授受ニ依リテ決濟ヲ爲シ得ルモノニハ其ノ賣買

各約定金高ニ對シ左ノ稅率ニ依リ取引稅ヲ課ス

第一種 地方債證券又ハ社債券ノ賣買取引

甲 七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ

乙 其ノ他ノモノ

萬分ノ〇・六

萬分ノ一

第二種 有價證券ノ賣買取引

甲 七日以内ノ期限ヲ以テ履行期ト爲スヘキ取引ニ屬スルモノ

萬分ノ一・五

萬分ノ二・五

乙 其ノ他ノモノ

第三種 商品ノ賣買取引

賣買ヲ解約スルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セズ

第六條 削除

第七條中「定期取引」ヲ「賣買取引」ニ改ム

第八條中「仲買人」ヲ「取引員」ニ、「毎月分ノ定期取引」ヲ「取引税ヲ課セラルヘキ毎月分ノ賣買取引」ニ、「種別」ヲ「種別及其ノ區分」ニ改ム

第九條乃至第十四條、第十六條、第十八條、第十九條及第二十一條中「仲買人」ヲ「取引員」ニ改ム

第十七條中「定期取引」ヲ「賣買取引」ニ改メ第三項ヲ削ル

第十七條ノ二 取引所ニ於ケル賣買取引ニシテ第五條ニ規定スル賣買取引ニ該當セサルモノニ

付差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シタルトキハ取引物件ノ種別ニ從ヒ其ノ最高税率ノ取引税ヲ

課セラルヘキ賣買取引ヲ爲シテ脱税シタルモノト看做シ其ノ税金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ

直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス
前項ノ場合ニ於ケル税額ハ賣買各約定金高ニ依リ計算ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ爲シタル取引所ノ賣買取引ニ付テハ其ノ取引ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長伯爵奧平昌恭 散會ヲ命ス

散會 午後五時十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

取引所税法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十三日

右特別委員長

伯爵 奧 平 昌 恭

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 奥平昌恭印
副委員長 男爵 藤村義朗印

大正十一年三月二十三日

貴族院議長公爵 奥平昌恭殿 御前

現任貴族院議長 奥平昌恭殿 御前

（御座） 同議長 奥平昌恭殿 御前

（御座） 同議長 奥平昌恭殿 御前

○委員 奥平昌恭殿 議長 奥平昌恭殿

（御座） 本委員會議事 奥平昌恭殿 御前

本委員會議事 奥平昌恭殿 御前

本委員會議事 奥平昌恭殿 御前

本委員會議事 奥平昌恭殿 御前

本委員會議事 奥平昌恭殿 御前

本委員會議事 奥平昌恭殿 御前

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正十一年三月二十三日議長ノ指名ヲ以テ東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案特別

委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

（御座） 委員 奥平昌恭殿 御前

○大正十一年三月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ヲ結果左ノ如シ

委員長 子爵 野村八益三
副委員長 大澤謙二

會議

第一回 大正十一年三月二十四日

出席委員

委員長 子爵 野村八益三 委員 北條時敬
同 男爵 伊達宗曜 同 三宅秀
同 桑原善吉 同 宮川久憲郎

出席政府委員

委員 文部省專門學務局長

文部省專門學務局長

松浦鎮次郎

○大正十一年三月二十三日開會ヲ宣言スルニ關スル法律案特別委員會

開會 午後一時二十八分

○委員長子爵野村八益三 開會ヲ宣言スルニ關スル法律案特別委員會

(參照)

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案

火災復舊ノ費用ニ充ツル爲大學特別會計法第二條ノ金額ノ外大正十一年度ニ於テ十萬圓ヲ一般會計ヨリ東京帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

○委員長子爵野村八益三 散會ヲ命ス

散會 午後二時七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十四日

右特別委員長

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 子爵 野村八益三
委員 子爵 伊達宗曜
委員 桑原善吉
委員 宮川久憲郎

委員長 子爵 野村 益三印
副委員長 大澤 謙二印

大正十一年三月二十四日

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案

(附屬)同日議決ニ關スル法律案

議會 子爵 野村 益三

○委員 子爵 野村 益三

(附屬) 本委員會事務ニ關スル法律案

會指 東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案

火災被害ノ費用ニ充テ、大正十一年三月二十四日議決ニ關スル法律案

東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案

增加恩給等ノ増額ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正十一年三月二十三日議長ノ指名ヲ以テ增加恩給等ノ増額ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スル

コト左ノ如シ

- | | |
|----|--------|
| 侯爵 | 久我 常通 |
| 男爵 | 木越 安綱 |
| 子爵 | 樋口 誠康 |
| 子爵 | 西尾 忠方 |
| 男爵 | 荒川 義太郎 |
| 男爵 | 坂本 俊篤 |
| | 福永 吉之助 |
| | 西久 保弘道 |
| | 高橋 源次郎 |

○大正 委員長及副委員長選舉

增加恩給等ノ増額ニ關スル法律案特別委員會

○大正十一年三月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- | | | | |
|------|----|----|----|
| 委員長 | 男爵 | 木越 | 安綱 |
| 副委員長 | 男爵 | 坂本 | 俊篤 |

會議

第一回 大正十一年三月二十四日

出席委員

- | | | | | | | | |
|-----|----|----|-----|------|----|----|-----|
| 委員長 | 男爵 | 木越 | 安綱 | 副委員長 | 男爵 | 坂本 | 俊篤 |
| 委員 | 侯爵 | 久我 | 常通 | 同 | 子爵 | 樋口 | 誠康 |
| 同 | 子爵 | 西尾 | 忠方 | 同 | 同 | 荒川 | 義太郎 |
| 同 | 同 | 福永 | 吉之助 | 同 | 同 | 西久 | 保弘道 |
| 同 | 同 | 高橋 | 源次郎 | | | | |

○出席政府委員

- | | | |
|--------|----|----|
| 內閣恩給局長 | 入江 | 貫一 |
| 陸軍次官 | 尾野 | 實信 |

開會 午前十時三十六分

○委員長男爵木越安綱 開會ヲ宣告ス

(參照)

增加恩給等ノ増額ニ關スル法律案

第一條 大正十一年三月三十一日現在ニ於テ國庫ヨリ增加恩給、增加退隱料又ハ之ニ準スヘキ

モノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ對シテハ本法施行ノ日ヨリ當分ノ内其ノ金額ノ外症項ノ等差ニ從ヒ左記ノ金額ヲ給ス本法施行後增加恩給、增加退隱料又ハ之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ事由ノ生シタル者ニ付亦同シ

年額	甲						乙					
	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
一八〇 _円	一五〇 _円	一二〇 _円	一〇〇 _円	七〇 _円	五〇 _円	一六〇 _円	一三〇 _円	一〇〇 _円	八〇 _円	六〇 _円	四〇 _円	

第二條 前條ノ規定ハ大正十一年三月三十一日現在ニ於テ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號、巡查看守給助例、巡查看守退隱料及遺族扶助料法又ハ

明治四十三年法律第三十號ニ依リ府縣其ノ他ノ地方費ヨリ増加退隱料又ハ之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ付之ヲ準用ス

本法施行後前項ノ増加退隱料又ハ之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ事由ノ生シタル者ニ付亦前項ニ同シ

第三條 本法ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長男爵木越安綱 散會ヲ命ス

散會 午後零時十一分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

増加恩給等ノ増額ニ關スル法律案

○右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正十一年三月二十四日

右特別委員長

男爵 木越安綱

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 男爵 木越安綱印

副委員長 男爵 坂本俊篤印

○大正十一年三月二十四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 清 棲 家 教

副委員長 荒川 義 太 郎

會 議

第一回 大正十一年三月二十五日

出席委員

委員長 伯爵 清 棲 家 教 副委員長 荒川 義 太 郎

委員 男爵 矢 吹 省 三 同 片 岡 義 直 輝

同 麻 生 太 吉 同 小 橋 一 太

出席政府委員

內務次官 小橋 一 太

○大正十一年三月二十三日委員、清、棲、家、教、以、及、荒、川、義、太、郎、片、岡、義、直、輝、三、人、ヲ、選、出、シ、以、テ、開、會、ス、其、時、內、務、省、土、木、局、長、田、中、一、郎、亦、出、席、シ、以、テ、開、會、ス、

開會 午後三時二十六分

○委員長伯爵清棲家教 開會ヲ宣告ス

(參照)

土地收用法中改正法律案

土地收用法中左ノ通改正ス

第二條第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第二條ノ二 現ニ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ用ニ供スル土地ハ特別ノ事由アル場合ニ非サレハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ス

第五條中「權利ヲ有スル者」ノ下ニ「及其ノ土地ニ存スル建物ニ付賃借權又ハ擔保權ヲ有スル者」ヲ、「土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者」ノ下ニ「又ハ其ノ土地ニ存スル建物ニ付賃借權又ハ擔保權ヲ取得シタル者」ヲ、同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

起業者ニ於テ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ時ヨリ六月以上ノ期間ヲ定メ建物ノ移轉ヲ要求スル場合ニ於テ其ノ建物ニ付期間ノ定ナキ賃借權又ハ移轉スヘキ期間内ニ終了スル期間ノ定アル賃借權ヲ有スル者ハ關係人ト看做サス

第八條ノ二 本法ノ規定ハ土地ニ定着スル物件ニシテ之ヲ收用又ハ使用スルニ非サレハ事業ノ

目的ヲ達スルコト能ハサルモノヲ其ノ土地ト共ニ收用又ハ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條第三項ヲ左ノ如ク改ム

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム

宮内大臣、主務大臣又ハ地方長官前項ニ規定スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第十七條中「爲シタルトキ」ノ下ニ「又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキ」ヲ加ヘ「第三項」ヲ「第四項」ニ改ム

第十九條ノ二 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後土地所有者及關係人ハ行政廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第八條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收去スルコトヲ得ス

第二十條中「前條」ヲ「第十九條」ニ改ム

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ作製スヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調書ヲ作製スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ作製スルコト能ハサルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作製スヘシ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方長官立會人ヲ指定スヘシ、同金又ハ特殊ニ規定ス
起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作製シタル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十三條中「左ニ掲ケタル書類」ノ下ニ「及第二十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調書」ヲ加フ

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ二週間内ニ之ヲ市町村長ニ送付スヘシ
市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ五日內ニ公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間終了シタル日ヨリ一月內ニ收用審査會ヲ開クヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ限り二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第三十三條中「第二項」ヲ「第二項若ハ第四項」ニ改ム

第四十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條中「市參事會員、町村長」ヲ「市町村長」ニ「委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキ」ヲ「府縣名譽職參事會員タル委員ノ數減少シタルトキ」ニ改ム

本條ノ規定ニ依リ高等文官タル委員ノ數減少シタルトキハ地方長官ハ高等文官ニシテ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

第四十三條中「收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者」ヲ「前項ニ掲クル者以外ノ者」ニ改ム
第六十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

第二十二條ノ協議ニ因リ取得シタル土地ハ本條ノ適用ニ付テハ之ヲ收用シタル土地トス
第七十五條 第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條 第九條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得ヌシテ土地ニ立入又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十七條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條中「四十圓以下ノ罰金」ヲ「百圓以下ノ過料」ニ改ム

朝鮮事業公債法中改正法律案特別委員會

臺灣事業公債法改正法律案特別委員會

樺太事業公債法中改正法律案特別委員會

關東州事業公債法案特別委員會

南洋廳特別會計法案特別委員會

大正五年法律第四號中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正十一年三月六日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮事業公債法中改正法律案、臺灣事業公債法改正法律案、樺太事業公債法中改正法律案、關東州事業公債法案、南洋廳特別會計法案、大正五年法律第四號中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- | | | | |
|----|----|----|----|
| 子爵 | 子爵 | 子爵 | 子爵 |
| 大給 | 稻垣 | 太 | 太 |
| 近孝 | 太 | 太 | 太 |
| 岡 | 岡 | 岡 | 岡 |
| 實 | 實 | 實 | 實 |
| 帶 | 帶 | 帶 | 帶 |
| 加 | 加 | 加 | 加 |

委員長及副委員長選舉

○大正十一年三月八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 荒井賢太郎

副委員長 男爵 佐竹義準

荒井賢太郎

男爵 佐竹義準

男爵 東郷太安

橋本圭三郎

高田早苗

鈴木摠兵衛

會議

第一回 大正十一年三月十三日

出席委員

委員長 荒井賢太郎 副委員長男爵 佐竹義準

ヲ求ム

○政府委員永井金次郎 前年度ニ於テ募債セルモノハ主ニ大泊真岡ノ築港及鐵道ノ改良建設ニ用ヒタリ今般要求スル増額ハ主トシテ鐵道建設及災害費ニ充ツルモノニシテ官行斫伐費一千二百萬圓ヲ要シ五箇年繼續事業トシテ五箇年後ハ約九百萬圓ノ利益ヲ見ルノ豫定ナリ

○委員男爵佐竹義準 樺太ニ於テ松毛蟲ノ被害ノ最モ多キ地方ハ何處ノ方面ナリヤ

○政府委員永井金次郎 主ニ南部地方ナリ

○委員男爵佐竹義準 樺太ノ森林ヲ急速ニ伐採シテ賣却スル方針ナリトノコトナルカ之ヲ立木ノ儘ニ賣却スル方却テ利益ナラスヤ

○政府委員永井金次郎 立木ノ儘ニテ一千萬石丈ヲ賣却シ其ノ他ヲ立木ノ儘ニ賣却スルハ困難ナルヲ以テ官行斫伐ヲ爲ス所以ナリ

○委員男爵佐竹義準 樺太ニ於ケル官林ノ拂下ハ世間ヨリ疑惑ノ眼ヲ以テ見ラレツツアルカ如キ

風説アリ本問題トハ何等關係ナキヤ

○政府委員永井金次郎 政府委員ニ於テハ斯クノ如キ風説アルコトハ未タ曾テ之ヲ聞カス

○政府委員佐竹義準 伐採後ノ土地ノ處分方法如何

- 政府委員永井金次郎 樺太ハ天然更新ヲ以テ進ム方針ニシテ人工殖林ト何レカ可ナルヤハ未タ研究スルノ運ニ至ラス
- 委員男爵佐竹義準 三千萬石採伐スレハ蟲害ノ他ニ及フ事ナキヤ又蟲害ノ防止方法等ノ研究ヲ爲セリヤ
- 政府委員永井金次郎 害蟲ノ驅除ニ關シテハ研究ヲ爲シ之カ費用トシテ六萬圓ヲ要求シタリ專門家ノ研究ニ依レハ今ハ其ノ被害ノ絶頂ニアルモ不如此ノ樹立木ノ蠶食實積スルハ蠶食ヲ爲セリヤ
- 委員男爵佐竹義準 鐵道ノ「ゲージ」建設方法等ハ内地ノ鐵道ト同様ナリヤ
- 政府委員永井金次郎 軌條ハ比較的輕便ニ近キモノナリ
- 委員男爵佐竹義準 樺太ニハ鐵道ノ敷設豫定線アリヤ
- 政府委員永井金次郎 樺太ニ於テハ約五百哩ヲ敷設セムトスルモノナリ其ノ内百七十八哩ハ既設ニシテ將來財政ノ都合次第殘リハ建設セムトスルモノナリ其ノ大利益ヲ得ルハ、蠶食ナリ
- 委員男爵佐竹義準 大泊ノ築港ノ狀況如何
- 政府委員永井金次郎 目下工事進行中ニシテ大正九年度マテニ完成スル豫定ナリシモ未タ終了スルニ至ラス大正十三年度マテニ十分ニ完成スヘシ

第七十九條ヲ削ル

第八十條中「二十圓以下ノ罰金」ヲ「五十圓以下ノ過料」ニ改メ同條ヲ第七十九條トス

第八十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第八十六條第一項及同條中「及沖繩縣」ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法中期間ノ定アル場合ニ於テ本法施行前其ノ起算期日ノ經過シタルモノニ付テハ本法施行ノ日ヲ以テ其ノ起算期日トス

本法施行前土地收用法第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ノ處罰ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

○委員長伯爵清棲家教 散會ヲ命ス

散會 午後三時四十二分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

7A143

東京市豊島区内幸町一丁目四番地

三 舎

印刷

東京市豊島区内幸町一丁目四番地

中 林 三 郎

印刷

貴州刺事務局

大五十一号十二月二十二日發行

大五十一号十二月二十日印刷





